

「愛知の児童文化」資料集（その5）

文化科学研究所児童文化研究グループ

これまで (1)児童文化関連施設、(2)文化人、(3)児童文化団体についてはすでに調査を終え、『文化科学研究』Vol. 9 No. 1～2、Vol. 10 No. 1～2に掲載した。この号では、子どもと関係の深い祭りや児童文化事項の一部を掲載し、さらにこれまでの各項目の補填をした。なお、このほかに子どもと関わりの深い祭りがあると思われるので、そのような場合には、ご推挙いただきたく、後日誌上に補填させていただく予定である。

祭りの解説のなかで、人物名については敬称を略した。また、祭りの関係団体から刊行された著作物を参考にしたり、取材協力をしていただいた事項についても、各専門分野の方々に執筆をお願いした。末尾ながら感謝の意を表したい。

執筆協力者〔事項〕 阿部孝子 阿部紀子 井上寿彦 近藤洋子 須藤三男 堀尾幸平  
畑中圭一 山路曜生 山本直子 鈴木まこと  
〔補填・文化団体〕 加藤えみ子 川津益章 榊原康正 鈴木ルミ 棚瀬友理  
野々山享 堀尾幸平 山田智子 山口君子 若尾隆子  
編集委員（執筆者） 原 昌 酒井 敏 磯部孝子 熊沢順子 新居正子 織田まゆみ  
服部裕子 今井美都子 山田 泉 高木孝子

## 伝承芸能（祭り）

### 犬山祭 いぬやまつり

針綱神社の行粧式として 1635 年（寛永 12）より毎年行われている。祭りの主役は 13 輛の車山で、愛知県有形民俗文化財に指定されている。「犬山型」と呼ばれる三層の曳山のつくりになっており、車山の最上層には江戸時代から伝わるからくり人形をのせ「乱杭渡り」「綾渡り」など披露し針綱神社に奉納する。からくり奉納後は城下町内を練り歩き、夜は各車山に 365 個の提灯をつけて練り歩き各町内に戻って行く。子どもの直接参加数は約 20 名で、車山の中でおはやしを行なう。

〔主催〕犬山祭保存会〔期日〕4 月第一土曜、日曜〔場所〕針綱神社前

#### 事務局所在地

〒484-0081 犬山市大字犬山字北古券 8  
犬山市文化史料館内 ☎ (0568) 62-4802

〔参考資料〕パンフレット

### 大谷八幡社例祭 おおたにはちまんしゃれいさい

1775 年（宝暦 5）に尾張藩によって調査されたという『尾陽村々祭礼集』には、大谷村に山車 2 台の記載がある事から江戸中期に起源があると考えられる。奥条車桜車の檀箱には力神、唐子、鶏が彫刻されており、蓬来車には唐子と犬が彫刻されている。直接参加としては、各々の山車に男の子 3 名が胴・手・足の役を分担して三番叟（人形）をあやつり、女の子は八幡社境内で巫女の舞を奉納する。

〔主催〕東・西神事部〔期日〕3 月最後の土、日曜日（4 月にかかることもある）〔場所〕常

滑市大谷字奥條 大谷八幡社

#### 事務局所在地

〒479-0837 常滑市新開町 4 丁目 1 番地

常滑市役所 商工観光課 ☎ (0569) 35-5111

〔参考資料〕リーフレット

### 鬼祭 おにまつり

日本の国のはじめの神話を田楽にとり入れて、祭の神事としたものと言われており、赤鬼は暴ぶる神を表わし、天狗は、武神を表わし、神社創立当時より安久美神戸の農民によって、毎年農作物の豊作を祈るために行なわれたと伝えられている。約 130 名の子どもたちが主体となり青鬼と岩戸舞、浦安の舞、子鬼、笹良児の神楽、神幸神楽を行なう。1980 年（昭 55）国の重要無形民俗文化財に文部大臣より指定された。

〔主催〕豊橋鬼祭保存会〔期日〕毎年 2 月 10 日、11 日〔場所〕豊橋市八町通三丁目 17 安久美神戸神明社

#### 事務局所在地

〒441-8023 豊橋市八町通三丁目 17

安久美神戸神明社 ☎ (0532) 52-5257

〔参考資料〕リーフレット

### 小原村文化祭 おほらむらぶんかさい

江戸時代の中期頃から小原歌舞伎が行われ、神社に奉納する素人の地芝居として始まったと言われている。小原歌舞伎保存会は、振り付け、義太夫、三味線を自前でこなすという特徴があり、30 以上の演目数を上演することができる。子どもの直接参加数は約 25 名で、中学生が主に歌舞伎に出演する。地域の伝統文化、芸能の伝承活動の一環としての参加意味を持つ。

〔主催〕小原村、小原村文化協会〔期日〕例年 11 月 3 日〔場所〕小原村中央公民館

## 事務局所在地

〒470-0531 西加茂郡小原村大字大草441の1  
小原村教育委員会 ☎ (0565) 65-2001

〔参考資料〕パンフレット

## 尾張の虫送り おわりのむしおくり

田植が終わって間もない頃、田の害虫を追いやるためになされる行事で、「サネモリ」と称する1.5mの藁人形や馬を作り、2m程の松明たいまつをともしながら村はずれまで送り、そこで人形などを焼く。12世紀末の源平合戦の折、斎藤別当実盛さねもりが稲の切株につまずいて倒れ、敵に討ちとられたために、恨みに思っ<sup>て</sup>実盛の霊が虫となり稲に取りついたという伝承に基づいている。直接参加者は約40名で約半数の子どもが行列に加わる。1984年（昭59）に愛知県無形民俗文化財に指定された。

〔主催〕島本新田虫送り保存会〔期日〕7月10日〔場所〕祖父江町島本新田地区

## 事務局所在地

〒495-0031 中島郡祖父江町大字上牧原下川田454 祖父江町教育委員会社会教育課  
☎ (0587) 97-2121

〔参考資料〕リーフレット類

## きねこさ祭 きねこさまつり

毎年旧暦の1月17日に厄除け、子孫繁栄、天下泰平、五穀豊穰などを祈念して行なわれる祭礼で、祭りの歴史は、神社の創建とともにあり、千年以上の歴史があると伝えられる。現在使用されている祭礼時の衣装や祭具の形状が、鎌倉時代以前の特色を残しており、その当時も現在とほぼ同様な形で祭礼が行われていたと推定されている。「きねこ祭」の名前は祭りに使われる祭具のきね（たて杵）とこさ（杵からこすり

落した餅）に由来する。直接参加は約17名で、舞、おはやし（里神楽）行列参加、祭礼の主役である役者を行ない文化遺産を担う者としての自覚を育てる事を目的としている。

〔主催〕七所社 きねこさ祭保存会〔期日〕旧暦1月17日〔場所〕七所社および神社西を流れる庄内川

## 事務局所在地

〒453-0862 名古屋市南村区岩塚町上小路1  
七所社 ☎ (052) 412-3671

## 幸田彦左まつり こうたひこさまつり

郷土の英雄、大久保彦左衛門のたらいで登城するエピソードをもとに仮装行列が街中を練り歩くもので、1989年（平成元）に始まり10回目を機に記念として子ども彦左をとり入れることになった。直接参加数は約170名で鼓笛隊、おみこし、仮装、ししまいを行なう。子どもの参加により全世代の参加となり世代の継承と伝統が培われる意味合いがある。

〔主催〕幸田町商工会〔期日〕7月最終土曜、日曜〔場所〕幸田駅前通り及び関連町道

## 事務局所在地

〒444-3600 額田郡幸田町大字芦谷字大西8の1 幸田町商工会 ☎ (0564) 62-0120

〔参考資料〕パンフレット

## 信玄原の火おんどり しんげんばらのひおんどり

毎年8月15日のお盆の夜、大小2つの塚を持つ信玄原にて長條合戦1575年（天正3）での武田、連合両軍戦死者の供養祭として「火祭り」が行われる。祭り当日夜になると男たちは、法被はっぴ、鉢巻、猿股姿で竹広旧家峯田氏宅に集まり、水垢離みずごりの後、峯田家主の起こした浄火を「お種」と呼ばれる三本のタイに移し同家を出

発、行列は先尊に火元峯田氏、そして太鼓や笛の音のテンポが早くなったのを合図に一斉にタイを袈裟十字にふりかざし勇猛果敢に踊り狂う。子どもの直接参加数は約30名で、火おんどり、盆踊りに参加する。

〔主催〕新城市竹広区〔期日〕8月15日〔場所〕信玄原

事務局所在地

〒441-1392 新城市字東入船6-1

新城市役所商工観光課 ☎ (05362) 3-1111

### しんしろいかだカーニバル しんしろいかだカーニバル

奥三河の杉や檜で作られた筏で豊川を下る。

弁天橋下を出発点とし1.8kmのコース。親子のふれ合いのなかで自然に親しむために、新城市が1988年(昭和63)より毎年開催。親子・レディース・一般の三部門に分かれ、応募により200チームを構成、約1,300名(内子ども120名)が直接参加している。観客数は約25,000名。

〔主催〕新城市観光協会〔期日〕7月下旬〔場所〕豊川流域・桜淵公園

事務局所在地

〒441-1392 新城市字東入船6-1

新城市役所商工観光課 ☎ (05362) 3-7634

〔参考資料〕パンフレット

### 田峯田楽 だみねでんがく

1559年(永禄2)田峯城主の管沼定忠が隣村の大輪村(現、鳳来町)よりこの「田楽」を移したと伝えられ、田峯観音境内を中心に行われる五穀豊穰を祈願する神事芸能である。昼、夜、朝の3部からなり、とくに1年の農作業を模擬的に演ずる夜の田楽はこのまつりの最大の特徴である。境内の舞台は1863年(文久3)に建築されたもので、農村歌舞伎の考察に貴重な資料

となっている。奉納芝居では、初幕に「寿ことぶき浄瑠璃三番曳じょうるりさんばんそう」が演じられ、「おおさいやおおさいや、喜びありや喜びありや、吾が所より外へやらじ」と軽快な幕開けとなる。国指定の重要無形民俗文化財で、子ども歌舞伎も含まれている。

〔主催〕田峯観音〔期日〕2月11日〔場所〕設楽町 田峯観音

事務局所在地

〒441-2221 設楽町大字田峯字鍛冶沢14

田峯観音 ☎ (05366) 4-5028

〔参考資料〕リーフレット

### 名古屋まつり なごまつり

1955年(昭和30)より始まり、郷土の英傑行列、市中パレード、宵まつりなどが行われる。祭りは、「古い歴史を持つ名古屋市の歴史を振り返り、祖先の姿を再現する古来の行事、過去の英傑をしのぶもの」と、「近代的な国際文化産業都市として躍進する新しい名古屋を市民の手によって作り出す若々しい力強さ」の二つの流れをコンセプトにしている。子どもの直接参加数は約5,000名、ブラスバンドの演奏、みこしパレードなどを行なう。

〔主催〕名古屋まつり協進会(愛知県・名古屋市・名古屋商工会議所)〔期日〕毎年10月10日から20日の間における金曜日から日曜日の3日間を中心日とする。〔場所〕市内一円

事務局所在地

〒460-8508 名古屋市中区三の丸三丁目1-1

名古屋まつり協進会事務局

☎ (052) 972-7611・2104

### フェスタ豊田矢作川 ふえすたとよたやはしがわ

・ジュニア釣り競技大会

- ・水源桜まつり & 矢作川舟あそび
- ・矢作川鶺鴒と舟あそび

西尾・碧南・鳥羽までの水運業と文化、歴史、産業の歩みを掘りおこし将来に伝えることを目的とし、1993年（平成5）より学校教育が週5日制になったことにともない、子どもたちの校外活動の一環として3つの行事が開催されることになった。なかでも伝統芸能の発表として矢作川鶺鴒と舟あそびでは、太鼓、踊り、三河漫才が行われ約100名の子どもたちが参加する。また、ジュニア釣り競技大会には約1,000名の子どもたちが参加する。

〔主催〕フェスタ豊田矢作川実行委員会〔期日〕ジュニア釣り競技大会（9月第2土曜日）、水源桜まつり & 矢作川舟あそび（3月末土曜日～4月第2日曜日）、矢作川鶺鴒と舟あそび（10月第1土・日曜日）〔場所〕水源公園と矢作川（平戸橋～水源）

#### 事務局所在地

〒471-0805 豊田市美里4-2-23  
☎ (0565) 88-8111

#### 真清田神社桃花祭 ますみだじんじやとうかさい

遠い昔、神社が鎮座する地は、松降庄青桃丘と呼ばれ、境内に桃樹が群生していたと伝えられ、この桃樹をもって災厄を祓い清め近くを流れる木曾川に流したことが起源とされる。祭りのメインとなる神輿みこしの棟札に1310年（延慶3）と銘記されていることから700年以前から行われていた。往きの御輿渡御の行列に続き、復りには神輿渡御に続いて各町内より飾馬8頭、流鏝馬25頭が出される。直接参加者は約50名で神輿渡御の折、少年武者神童神女が奉仕する。少年武者は神輿の先導役、神童神女はお旅所にて神楽舞を行なう。

〔主催〕真清田神社〔期日〕4月1日～3日

〔場所〕真清田神社境内一本町通一殿町一お旅所（公園通）

#### 事務局所在地

〒491-0043 一宮市真清田1-2-1  
真清田神社 ☎ (0586) 73-5196

#### 三谷まつり みやまつり

1696年（元禄9）8月のある夜、三谷村の庄屋佐左衛門が村の中央にある産土神八剣大明神が神輿みこしに乗って三谷村東辺の若宮八幡へ渡御される夢を見、これを神のお告げとし重陽の節句の9月9日を吉日として選び、神幸の儀式を執り行った。これが祭りの始まりと伝えられている。その後、村の発展とともに盛大になり、京都祇園祭の山鉾を模したと思われる壮大な山車を建造し、これを海中に曳き入れる行事をも奉納することとなった。蒲郡市の指定無形民俗文化財に指定されており、祭の最後には、子踊りが行われる。子どもの直接参加数は約350名で〈山車小僧〉では、山車に乗りこみ、笛、チャングリなどを奏でる。

〔主催〕三谷祭実行委員会〔期日〕10月第3または第4土、日曜日〔場所〕八剣神社 若宮神社および三谷温泉海岸

#### 事務局所在地

〒443-0021 蒲郡市三谷町七舗142-1  
三谷祭実行委員会 ☎ (0533) 67-1763

〔参考資料〕パンフレット

#### 楽・学・創（水辺まつり） らく・がく・そう（みずべまつり）

1988年（昭和63）から、子どもたちがふるさとの川に親しむイベントにしていくために、川に入っの遊びがメインの水辺まつりとして毎年行われる。身近な自然と親しむ事により子

どもたちの豊かな人間形成を図る。子どもの直接参加数は約 350 名で手作りイカダ作成への参加や川の上の浮き橋を渡ったり、川下りをしたりする。中学生以上は、プレイリーダーになり大人のスタッフといっしょに活躍する。

〔主催〕岩倉市、岩倉の水辺を守る会〔期日〕8 月（期間に変動あり）〔場所〕岩倉市内の五条川事務局所在地

岩倉市企画財政課 ☎ (0587) 66-1111

### 龍宮まつり りゅうぐうまつり

海の夏祭で、海岸漁場波打ちぎわに広さ約 10m<sup>2</sup>、高さ約 80cm の亀形を海に向け土盛りし、海水で清めその上に祭壇を調べ、八大龍王神を主体として修法をし、海上安全、大漁満足、天下泰平、風雨順次を祈念する祭である。修法を終えると祭壇の献供物を一本の藁苞に一包みにし、一艘の漁船に奉持し、沖に漕ぎ出、三回まわって重りをつけ海中に投ずる。祭りの起源は不明であるが徳川末期頃からではないかと言われている。長仙寺法印によってとり行われる。子どもの直接参加者は約 30 名で、海岸において、浦島太郎の寸劇を行ない賑やかなしの役を果たしている。

〔主催〕白谷区〔期日〕8 月 15 日〔場所〕白谷海水浴場

事務局所在地

〒441-3421 渥美郡田原町大字田原字南番場 30-1 田原町観光協会 ☎ (05312) 2-1151

〔参考資料〕パンフレット

\* 以上、祭り執筆者・山田 泉

## 事 項

### 絵 本 えほん

愛知で出版された絵本は少なく、1973 年（昭 48）の『月刊絵本』は貴重な活動であったが、惜しくも短命に終わった。県内在住の絵本作家も少数であり、絵本の創作活動の層は薄い。

福音館書店の『こどものとも』でデビューし、60 年代から長年仕事を残しているのが吉本隆子と川上越子である。吉本は近年、短大保育科教師としての色彩研究を基に、色彩理論の基本色をバランスよく構成し、幼児の成長や色弱者を考慮した遊具や絵本を創作している。川上は昔話絵本の他、野菜や自然の大地に根ざした逞しさと美しさの表現に独自の世界を持っている。

祖父江文宏は、吉本が絵を描く『ててて』や『だいじ だいじ』のほか、『グレコード・ノラ』『風』（いずれも東本願寺出版）などの文を書く。宗教を幼児にやさしく説く絵本であり一般には目に触れにくいのが、書き込みすぎず絵とのバランスが良く、絵本としての完成度は高い。

夏目理知子と名倉名知子の姉妹は、姉が文、妹が絵と共同で、故里の匂いを漂わせる『ほうらい寺のおはなし』シリーズの手づくり絵本で定評がある。コンテストで何度も賞を受け、手づくり絵本の講習や講演など、活動の幅を広げている。

愛知県出身の絵本画家には、杉浦範茂、瀬川康男、平山英三（『さんぽくまさん』福音館書店）、宇野亜喜良、辻村益朗（『伝承おりがみ』福音館書店）、高島純がおり、村上康成は愛知県立芸術大学出身である。（阿部紀子）

## 親子映画 おやこえいが

親子が安心して、ともにみることのできる映画を上映・鑑賞しようという市民文化運動。1960年代は、テレビを中心としたマスコミ文化が大きく台頭した時期だった。製菓会社をスポンサーとしたTVアニメが次々と開始され、週刊漫画雑誌も創刊ラッシュを迎え、子どもをとりまく環境が大きくかわったといえる。消費的、退廃的文化から子どもを守ろうという一種の危機感の中で、「見ない、見せない、買わない」というスローガンもうみだされていった。だが、一方で、親も子も安心して楽しめる文化財としての映画を提供することで、積極的に危機に対処しようという動きもでてきた。

親子映画運動は、埼玉県の「本宮方式」映画教室などの自主上映運動などを先駆に、教師・父母・地域団体の上映運動と、配給会社の配給普及網拡大がタイアップしたことで、持続的な上映運動となっていく。1966年（昭41）埼玉県大宮市での「せむしの仔馬」（主催：子ども会連盟）、親子映画第一作「竜の子太郎」（'66）、「黒姫物語」（'67）を経て、親子映画運動推進連絡会が発足した。その後、東京や埼玉の経験が語られることで全国に広がり、各地に「親と子のよい映画をみる会」や「子どもと一緒に映画をみる会」などができていった。このような観客の熱心さに答える形で、制作者の意欲も高まっていった。

愛知県では'68年頃から、父母・教師・名古屋共同映画が中心になり、犬山、一宮、東海、半田、岡崎、豊橋などで結成された。'75年の「猫は生きている」上映の頃から、「ちびっこカムのぼうけん」（'76）、「こむぎいろの天使」（'78）上演の頃が組織の最盛期といえよう。1980年「三本足のアロー」は19万人の鑑賞者を集めた

が、その後、親子映画の組織が弱体化し、名古屋共同映画が直接出向くことが多くなった。観客もファミコン世代となり、制作者側もそれに迎合した形でアニメが多くなり、以前ほどの熱気はなくなっていった。'91年、名古屋共同映画が倒産、現在、あいち教育映画が親子映画の理念を引き継いでいる。近年では「ぞう列車がやってきた」（'92）、「五等になりたい」（'95）が一定の成功をおさめた。（織田まゆみ）

## おやこ劇場 おやこげきじょう

地域によっては「子ども劇場」「親と子の劇場」と呼ばれている文化運動団体。

1966年（昭41）福岡市で、生の舞台をみる鑑賞活動と、地域の中での子どもの自主活動という2本柱の目標を掲げて発足、全国的に広がった。入場税非課税の国会請願運動などを経て、'74年、全国子ども劇場おやこ劇場連絡会（現子ども劇場全国センター）が結成され、日本児童青少年演劇団協議会や日本青少年音楽団体協議会との舞台鑑賞例会企画に関する協定を経て、最高時では53万人の会員をもつまでに発展した。自分たちのみたい舞台を、大人も子どもも同一料金で、継続的にみるだけでなく、大人も子どもも共通の体験をしながら、新しい文化を対等に切り開いていくという、「大人と子どもの育ちあい」運動の希求が、特徴であり強みだったといえる。しかし、近年、少子化による会員数の減少などから転機を迎え、活動の見直しや、新たな試みの模索がされている。こどもの権利条約の実施にむけて、子どもたちが豊かな子ども時代をすごせるような環境をめざす積極的な働きかけや、会員のみだった自主活動の拡大、「特定非営利活動促進法」（NPO法）に基づく法人化の申請などもそのひとつだろう。

愛知県では、中学教員だった加納克己が推進力となって、'71年3月、名古屋おやこ劇場が発足した。全国で18番目だった。第一回例会は、劇団「風の子」による「うぬぼれうさぎ」。2ステージで約1,500名をあつめた。3人以上で運営されるサークルが数多く生まれ、夏には「おやこキャンプ」が企画された。

翌'72年、岡崎おやこ劇場、'73年豊田、豊橋おやこ劇場が発足、その後春日井、尾北、一宮、豊明など徐々に新しい劇場が増えたり、劇場がある程度大きくなると分割したりで、現在県下に36のおやこ劇場がある。会員数は90年代になって23,000人を超えたが、現在15,000人台である。

県下の親子劇場の多くが、愛知県おやこ劇場連絡会に加入して、交流、研究活動をおこなっている。しかし、各おやこ劇場は、それぞれ個性をもち、特色をもった運営がされているといえる。見直しの機運のある劇場もあり、たとえば名古屋おやこ劇場では、組織が再編成され、鑑賞活動に比べて比較的弱かった、子ども対象ワークショップなどの子どもサポート事業や、子育て支援事業に対して、より積極的に取り組もうとする姿勢が明確になっている。(織田まゆみ)

## 音楽〈器楽・合唱〉 おんがく・きがく・がっしょう

古来から集団間の交流や、集団意識を育てるために、人は歌を歌った。やがて神への祈りが歌となり、それが合唱に発展した。こうして合唱は宗教の発生とともに、宗教的儀式と強く結びついて成長し、現在では独立した分野として歌い続けられている。

器楽については、楽譜が確立する10世紀頃までは、声楽の補助か、または代りでしかな

かった。16世紀頃に声楽から自立し、芸術的な価値が与えられるようになり、現在に至っている。

わが国の子どもたちによる合唱や器楽演奏は、従来主として学校教育のなかの、教科外活動(部活動)として実施されてきた。最近では学校教育制度、受験制度の改革や少子化などの影響を受けて、活動は衰退している。それに代って学校外場で、子どもの自主的参加による演奏団体が結成されているが、器楽の演奏楽団は合唱団に比べると、数は少ない。今日子どもの心身の健全な育成の見直しが叫ばれていることから、演奏の技術や芸術性の追求だけでなく、協力することの大切さや互に思いやる心など、情操を養う場としても期待されている。

2002年(平14)での学校週五日制導入を視野に入れて、愛知県では児童文化活動団体が、活発に動き始めている。県内の児童による器楽演奏楽団は数は少ないが、そのなかでNHKの「名古屋放送児童管弦楽団」(現「名古屋青少年交響楽団」)が、'57年1月の結成以来、現在でも意欲的な演奏活動をしていることは特筆すべきことである。

このほかに子どもの鑑賞を目的とした演奏会を行っている「名古屋フィルハーモニー交響楽団」や「セントラル愛知交響楽団」の活動も見逃せない。

また、日本の民俗音楽の分野における、和太鼓の演奏団体の活動がある。愛知県下の和太鼓サークルが結集して、熱の入った合同演奏会を毎年開催している。

合唱団では'48年4月、NHKが「名古屋放送子供唱歌隊」を結成し、中野二郎作曲、中条雅二作詩の童謡などを盛んに演奏したが、現在は活動していない。同時に結成された児童劇団



(現「名古屋放送児童劇団」)は、現在でも盛んに公演をしたり、団員がテレビ出演するなど、広範囲に活動している。

この他に「名古屋少年少女合唱団」「豊田市少年少女合唱団」「半田少年少女合唱団」などは、20年以上の活動実績と、活動範囲を海外にも広げて意欲的な演奏活動をしている。こうした器楽や合唱団体に共通していることは、優れた指導力と熱意のある指導者を持ち、練習場の確保や楽器・楽譜の準備と管理など、運営面の助成や支援母体が確立していることである。それは、地方自治体や父母会、育成会、後援会などで、各団体独自の組織作りがなされていることによる。

そのほかに県内のいくつかの地方自治体には演奏団の合同発表会や、技術の向上、親睦などを目的とする連盟や協会組織がある。近年では'97年(平9)に、愛知県少年少女合唱連盟が結成され、30団体がこの連盟に加盟している。(熊沢順子)

### 家庭文庫・地域文庫 かていぶんこ・ちいきぶんこ

個人、またはグループが、家庭の一室や集会室などに、子どもの本をおき、子どもたちに開放する活動。子どもの手近に本をおくことで、読書の喜びを伝えていくことを活動の中心としている。

活動の始まりは戦前であるが、現在のような形になったのは、'50～'60年代以降、子どもをとりまく環境の悪化に危機感をもった母親たちの運動からである。石井桃子が自宅で開いた「かつら文庫」での経験をふまえた『子どもの図書館』(岩波書店'65)の出版が、文庫への関心に拍車をかけ、全国各地に文庫がうまれた。それに伴い、情報交換、経験交流の必要性から、

地域での文庫連絡会、さらに全国的組織である「親子読書地域文庫全国連絡会」が'70年に結成された。'81年には、全国で4,500をこえる文庫が運営されていて、親子読書運動や、公共図書館の増設・サービスの改善、とくに児童サービスの向上をもとめる運動において大きな役割をはたしていった。

愛知県では、'63年(昭38)、名古屋市北千種町(現若水町)で、国家公務員住宅にあった「なかよし文庫」が文庫活動の最初といわれる。その後、西山住宅に「仲よし文庫」('64)など7文庫、鳴海団地の保育の会からうまれた「仲よし文庫」('66)、家庭文庫である「あまの文庫」(千種区、'67)などが開設され、'71年には名古屋市内で16の文庫があった。翌'72年、各文庫の情報交換と学習の場としての「文庫のつどい」(名古屋文庫連絡会)が結成された。文庫の蔵書の少なさ・文庫運営の苦しさを背景とした公的援助と、公共図書館への要望が行政になされ、団体貸し出しの冊数増加・期限延長、補助金、新設図書館への要求反映など一定の成果があった。名古屋市以外でも、井上文庫(瀬戸市、'69年)、江南団地自治会文庫(江南市、'69年)、半田なかよし文庫(半田市、'74年)などが開設され、'81年で、名古屋市43、尾張51、三河20の文庫があった。また、文庫連絡会も'87年には、45文庫加入の名古屋文庫連絡会・春日井文庫連絡会(20文庫)・岡崎文庫連絡会(5文庫)・西尾文庫連絡会(4文庫)・知多文庫のつどい(10文庫)・日進町子ども文庫連絡会(5文庫)・刈谷読書グループ連絡会が組織されていた。

しかし、'80年代から子どもの減少が意識されるようになる。ファミコンの普及、塾通いの増加などで、文庫にくる小学生が少なくなり、

代わりに母と幼児の参加が目立つようになった。図書館の肩代わりという初期の役割から、新しい活動の模索がなされ、本以外のさまざまなあそびや活動を子どもたちとおこなったり、異年齢集団への遊び場提供としての文庫活動、あるいは子どもが来るのを待つのではなく、学校などにでかけ、お話し会を開く「出前」活動などもおこなわれるようになった。全国子ども文庫調査によると、愛知県の文庫は、'93年の調査では、55文庫とされているが、(同調査によると、前回'81年調査時も55)既存の文庫の休業・閉鎖と新しい文庫の誕生という交代もあるとはいえ、1文庫あたりの子ども利用数は、確実に減少している。しかし、その半面、多様なスタイルの活動がされるようになったともいえよう。'90年代からの「学校図書館に人を」の学校図書館充実運動にも文庫関係者が大きな役割を果たしている。(織田まゆみ)

### カナダ子ども文化祭り かなだこどもぶんかまつり

1997年(平9)11月12日～17日に、名古屋・カナダ文化協会とカナダのサイモン・フレザー大学デビット・ラム異文化言語センターの主催により開催された。

紀伊國屋書店ロフト名古屋店にて、カナダの子どもの絵本282点を展示。コピソン珠子、ジュディス・サルトマンのカナダの子どもの文化についての講演のほかに、ナン・グレゴリー、三輪哲、桂宥子らが加わっての国際シンポジウムも「児童文学と読書活動」と題して行われた。また、オタワ子ども中央合唱団を招き、瀬戸児童合唱団、春日井市立不二小学校、名古屋少年少女合唱団、桜ヶ丘少年少女合唱団(岐阜県可児市)と交流。碧南市ではナン・グレゴリーと古屋和子の語り、飛鳥童の絵本についての講演

が行われた。(山本直子)

### 子どもの本専門店 こどものほんせんもんてん

子どもの本だけを専門的に扱う本屋は、一般書店に置かれている子どもの本が質、量とも不十分であるとの不満を背景に出現している。三輪哲が、名古屋市千種区に、子どもの本専門店「メルヘンハウス」をオープンさせたのは、1973年(昭48)、日本で初めてであり、世界的にみても先駆的試みであった。その後各地に後続店が出現し、現在全国で70余ある。

子どもの本専門店は、それぞれ個性はあるものの、本・絵本の企画・展示をしたり、おはなし会や読書会を定期的に行ったり、講演会やさまざまな文化的企画を試みるなど、地域の情報発信地としての役割を担っている店が多い。しかし、子どもの本だけを、それもある程度の基準以上のものだけを扱おうとすると、経営的には決して楽とはいえない。愛知県下の子どもの本専門店は、メルヘンハウスのほか、ていんかあべる('80)、夢文庫ピコット('81)、花の木村('84)など、10軒を数える。(織田まゆみ)

### 国際児童図書展 こくさいじどうとしょてん

1979年(昭54)は、国際連合が「児童の権利宣言」を採択してから20年目に当たるため、ユネスコの提唱により国際児童年とさだめられた。それを記念して、名古屋市図書館では、12月1日より9日まで、名古屋市博物館にて「国際児童図書展」を開催した。外国および日本の著名な児童図書や絵本、約1,500点を解説つきで展示。その内容については、

- (1)「本と仲良しになろう—子どもの本に近づくために」と題して…約300点
- (2)「あんな本こんな本—子どもの本の発見の

ために」として…〈王さまの本〉〈こびとの本〉〈戦争の本〉など、テーマに応じて日本と世界の本を、翻訳書も含め、約 600 点 (3) 「子どもの本を深く知るために」として…約 32カ国にわたる約 500 点の原書とともに、関連した翻訳書を約 600 点を展示。

朝日新聞社・日本児童図書評議会・日本児童文学学会員の協力を得て、入館者 4,867 人の市民に「世界の子どもの本」の楽しさを伝えることができた。(近藤洋子)

## 児童組織 (子ども会) じどうそしき (こどもかい)

子どもの遊び集団を基調にしたわが国の《子ども会》組織は、'47 年 3 月 (昭 22) 厚生省に児童局が設置され、同年 12 月に『児童福祉法』が制定された時から始まっている。戦前には、宗教団体が行う日曜学校や地域の篤志家が行っていた伝承行事や紙芝居会、お話会などに子どもが集まっていた。これらの会は継続性がなく一日だけのものが多かったし、系統だっていない。第二次世界大戦中は国策として、全国的に「大日本青少年団」があったが、終戦とともに消滅した。

終戦直後は日本中の生活状態が悲惨であり、とりわけ都会では空襲で家族を失った子どもは食もなく寝る家もなく、駅やガード下や公園のベンチなどを住みかとしていた。また少年犯罪も多く発生していた。

文部省では'46 年 9 月から 10 月にかけて地方長官や各学校に対して「青少年不良化防止対策要綱」を通達し、児童愛護班、母親クラブ、地域子ども会などの青少年団体組織の結成を呼びかけた。また翌'47 年には六三三四制の教育改革のなかで PTA 組織が発足した。

一方、前掲の児童福祉法が公布され、地域に

おける児童福祉施設の施設が促進され、地域子ども会が発足していった。

このようにわが国の《子ども会》の起源は、文部省にみる不良化防止策と、厚生省にみる児童福祉の両面があり、現在でもこの流れは各々都道府縣市町村で二つになっている。

1949 年 11 月、文部省は次官通達で、各県を通じて学校に《子ども会》の結成を早急に行うよう要請し、学校からは民生児童委員、町内会長、篤志家に対して呼びかけて結成を始めた。

1951 年からは文部省、厚生省、全国社会福祉協議会等が共催して、公民館、児童館、PTA ほか児童健全育成指導者を対象にレクリエーションの理論と実際、リーダーシップ論、キャンプ概論と実際、子どもと文化財などの研修や講習会を各地で開催している。一方、年少リーダーやジュニアリーダー、大学生や青年リーダーの重要性の再認識により現在もその養成はつづいている。

名古屋市では 1949 年に北区をモデル地区に指定し 16 の子ども会が結成され、その後全区に広がった。また、1951 年には単位子ども会の相互の連絡強調をはかり、子ども会活動をより効果的にするため、中川区に初の子ども会連合会 (区子連) が結成された。全市の連合組織、名古屋市子連の発足は 1965 年である。

愛知県では 1950 年 7 月、犬山市の継鹿尾山寂光院で第一回子ども会リーダー研修会があった。また第一回成人指導者研修会は 1954 年、同じ寂光院で開催されている。愛知県子ども会指導者連絡協議会 (県子連) の発足は 1961 年である。

中部地方を中心に《子ども会》の育成に多大な影響を与えてきたのは、当時中部日本新聞社 (現在の中日新聞社) の「中日子ども会」(中日

弁論研究会)である。指導は三宅邦夫が担当していた。三宅はあらゆる地域に出かけ「巡回子ども会」を開き、ゲーム実技や講演、講習会の講師を務めた。また中日子ども会の会員を募集しリーダー養成するとともに、地域の子ども会研修会で指導する事により大いなる成果をあげた。会員にはのちの総理大臣海部俊樹がいる。

揺籃期の子ども会の振興に寄与した人物としては、レクリエーション指導で東海中学の松濤基道、YMCAの東根俊一、ライオン歯磨の宮川太一郎がいる。また1950年から始まった子ども会コンクール第一回では、鈴木富治郎の指導する南区のみどり子ども会が人形劇で優勝し、厚生大臣賞を獲得した。このコンクールは全市の子ども会の育成に大きな刺激となった。

子ども会の最小単位は地域子ども会で、10名位から数十名の町内別集団を一単位といい、各小学校区内の子ども会の集まりを学校区(連区)子ども会連絡協議会と呼び、各市町村の連絡組織をそれぞれ市町村子連、また各県での組織を県子連、全国組織を全子連と略称している。各単位には大人の世話人や育成会があり、また大人の指導者やシニアやジュニアリーダーによって指導が行われている。次に子ども会の現況を記しておく。

〔名古屋市〕1999年3月現在、16行政区・単位子ども会数3,274団体、会員数118,128人(未就学児童7,409人、小学生90,920人、中学生19,799人)

〔愛知県〕1999年3月現在、87市町村・単位子ども会数6,275団体、会員数271,721人(未就学児童7,014人、小学生254,077人、中学生10,512人、高校生会員118名)

〔全国〕1998年10月現在、単位子ども会数129,132団体、会員数5,212,554人(未就学児

童209,992人、小学生4,018,506人、中学生647,410人、その他分類されないもの336,646人)

いまわが国では子どもの教育(学校、社会、家庭)についてさまざまな提言がなされているが、その中で遊びを通して成長する子どもの集団は、いまや壊滅状態に近い。子ども会集団も愛知県の場合、1983年には81万人の会員数が1998年には約49万人に激減している。ガキ大将のいない子ども社会はどうなっていくか、その課題は深刻である。(鈴木まこと)

## 伝説・昔話 でんせつ・むかしばなし

伝説は、県内各地の山川草木に、あるものは由来の説明として、あるものはその地で起こった出来事を語り継ぐ物語として残っている。この地に特有の文化叙事伝説としては、まず第一に、熱田神宮を始め県内各地に倭建命伝説がある。白鳥町、白鳥塚などは、倭建命の霊である白鳥にちなんだ地名である。尾張本宮山の山姥、春日井に伝わる八百比丘尼など女性についての話も多く、浄瑠璃姫伝説は、源義経に対する悲恋物語として、岡崎市や南設楽郡鳳来町に伝わっている。だいだらぼっちや、弘法説話は全国的に分布しているが、愛知県でも豊橋市の石巻山には大男の足跡があると言われているし、知多市や刈谷市など県下各地に、旅の僧である弘法大師が親切なもてなしを受けたお礼に杖をついてできたという池や井戸がある。

昔話は、特定の土地や歴史的事実から離れて、一般化、定型化して伝承された話であるが、伝説同様、風化が進み、昔話を記憶して語ることのできる「語り部」がほとんどいなくなってしまった。県下各市町村では、こうした事態に対する危機感から、あるいはふるさつを見直した

めに、教育委員会や住民グループの手で昔話の発掘・調査が行われ、まとめられている。しかしこれらのほとんどは、伝説と昔話の区別なしに「むかしばなし」と呼び、「民話」の呼称を用いている例も多い。使われている言葉は、話者の語り口を忠実に記録・再現したものから共通語に置き換えたものまでさまざまであるが、説明文は共通語とし、会話の部分だけに方言を使うといった工夫も見られる。

岡田弘は、戦後まもなく自らの足で歩いて昔話の採集を行った。名古屋市東区から始めて順次他区に進めていき、最終的に名古屋市全域の昔話集を区別にまとめた。基本的に名古屋弁が使われていて、明るい笑話が多く採られているのが特徴的である。小島勝彦は、「ふるさとを訪ね民話を読む会」を主宰し、『おかあさんがあつめたなごやの民話』（自刊'75）、『東海の民話』（中日新聞本社'80）などを編集している。東海ラジオ放送が「ぶっつけワイド」のなかで1983年（昭58）2月より月1回「わがまちのむかし話」を放送したが、この番組のために平松哲夫は、昔話を採集し、脚本を書き、解説をしている。また放送内容は、『東海の昔話』（ブックショップ「マイタウン」'97）ほかとして出版されている。

愛知県郷土資料刊行会編『愛知のむかし話』（'73）、『続愛知のむかし話』（'74）、愛知県小中学校長会編『あいちのむかしばなし』（全6冊'74-'79）、毎日新聞社学芸部編『東海の民話』（'75）、日本児童文学者協会編『愛知県の民話』（偕成社'78）、愛知県小中学校長会編『あいちのむかしのおはなし』（全4巻、'87-'90）なども子ども向けにまとめられている。（新居正子）

## 図書館 としよかん

### 公立図書館

'60年代、日野市の実践などに代表される、地域住民が望む資料を提供する市民の図書館づくりという図書館内部からの動きや、家庭文庫・地域文庫や読書運動のなかで高まった図書館サービスへの期待は、公立図書館を、国民の知る権利の保障をめざす機能をもつものとして位置づけた。臣民教化機関だった戦前の残滓は徐々に払拭されたのである。このような流れのなかで、図書館利用者としてもっとも若い子どもへのサービスが重視され、児童図書の実、児童室設置、専門司書の養成が要求されるようになった。つまり、図書館は、すべての子どもが、興味と関心、発達段階に応じて読書の楽しみに出合う援助をする機関であるとの認識が浸透したのである。これには、児童図書館研究会（'53）や日本図書館協会公共図書館部会児童図書館分科会（'56）などでの図書館員による研究・実践活動や、文庫活動・読書運動など、子どもに関わる市民運動からの要望や連携が大きき力となった。

愛知県の図書館設置率は、'66年、市で72.8%、町で9.6%、村で0%だったが、'96年、市では31市すべてに設置されているものの、町では46.8%、村では10%となった。しかし、児童専用の貸出図書館があるのは、尾西市児童図書館だけであり、分館があるのは、7市、移動図書館を運行しているのは、12市2町（17館）1広域圏にすぎない。このことは、多くの図書館で児童図書の蔵書を、全蔵書の4分の1から3分の1揃えるようになり、児童担当者をおき、定期的行事を行なう館も増えているという一定の前進にもかかわらず、子どもの住居の近くに利用できる図書館がある、という理想か

らはほど遠いといえよう。先進とされている名古屋市図書館でも、コンピューター設置との引き換えに、児童カウンターの閉鎖という子どもへのしわ寄せがおこっている。このようななかで、'85年から開設されている岡崎市の、図書室をもった子どもの遊び場である「学区子どもの家」は注目されよう。

また、図書館職員は、県全体で、専任職員が694名、兼任職員が18名、臨時職員が271名('96)となっており、職員全体のうち専任職員が占める割合は71%である。さらに、専任職員のうち、司書資格を持っている者は400名、58%にすぎない。

多くの図書館では、おはなし会・手づくりあそびなどのボランティアグループが活動したり、子どもの本の勉強会などが行われ、子どもをめぐる地域活動の拠点となっている。また、名古屋市立鶴舞図書館には、児童図書研究室があり、研究書の充実もめざしているし、'91年に新館オープンした愛知県図書館は、試行錯誤しながらも、現在は洋書の収集に力をいれている。県図書館は、県内の公共図書館をバックアップする役割を担っているので、これからの発展が大いに期待されている。

#### 私立図書館

元保育園経営者で、絵本・保育教育研究者の佐藤宗夫が、妻操の遺志を引き継ぎ、1986年(昭61)11月に名古屋市中川区に開設した「みどり図書館」が代表格である。蔵書1万5,000冊、週2日の開館でスタートしたが、利用する子どもが増え、現在は、週5日、司書4名体制で対応、蔵書2万5,000冊、登録者数1万2,700人、貸し出し総数56万4,000人('99年10月)となっている。子どもたちが、司書と遊び、友達をつくり、時々1対1で本の読みきかせをし

てもらい、そんな生活をしていくうちに本の楽しさがわかってくるという「本のある広場」をめざしている。だが、図書館の運営費などは、すべて館長佐藤宗夫の講演活動謝礼でまかなわれており、将来を考え、財団法人化をめざす取り組みも始まっている。

また、株式会社ユニーが出費し、店舗内にスペースを提供して、運営を子どもの本専門店のメルヘンハウスに委託している子ども図書館も愛知県内に2つある。小牧市の「アピタ桃花台子ども図書館」('91)と春日井市の「サンテラス高蔵寺子ども図書館」('92)で、どちらも蔵書数一万冊以上、2名の司書がサービスにあっている。(織田まゆみ)

#### 読書運動 どくしょうんどう

戦前では、不読者をなくす公的機関の事業として読書運動ということばが用いられ、子どもの読書への関心の萌芽もみられるようになったが、やがて戦争遂行のための教化の手段にからみとられていった。

戦後、新しい子どもの視点にたつ児童文学作品の創造が活発になる一方で、多くの出版社が、質より量に重きをおく出版をおこなったため、玉石混交の状態となり、どの本を選んだらよいか戸惑う状況がうまれていた。また、'60年代になると、TVアニメや週刊漫画雑誌が次々と登場し、読書への大きな脅威となった。つまり、読書運動は、子どもと子どもの本を守りつつ、かつ子どもの本自体の質的向上をはかるという2つの要素がからみあった啓蒙活動ととらえることができるだろう。

鹿児島県立図書館長椋鳩十の「親子20分読書」の提唱('60)は各地で無数の運動をおこし、斎藤尚吾の日本親子読書センター('67)も

設立された。また同年、作家・評論家・教師・保育者・図書館員などで、日本子どもの本研究会が発足した。これは児童図書の研究を行い、普及と向上をはかることを目的とした。さらに、各地での文庫活動の盛り上がり背景として、子ども文庫や親子読書にかかわる母親や教師による親子読書地域文庫全国連絡会（'70）が結成された。

愛知県でも、'60年代に、じわじわと文庫活動が浸透していたが、'68年（昭43）、日本児童文学者協会名古屋支部と、勅使逸雄が館長をしていた東別院青少年会館が共催で「第一回児童文学講座」をひらき、以降'70年代前半を通して、児童文学・児童文化に関する講座が同会館で開かれ、活動の拠点となった。

また、'70年、佐藤宗夫らにより、日本子どもの本研究会名古屋支部が結成された。やがて、支部機能はもちつつ、名古屋子ども本研究会として独立し、豊橋・一宮・稲沢にも普及しそれぞれの地域に研究会がうまれた。翌'71年、野口二郎、原昌らによって東海児童文化協会が設立された。児童文化財の総合的研究と、すぐれた文化財の普及をめざし、玩具・雑誌・絵本・児童書・テレビなどの各グループにわかれて例会がもたれ、『東海子どもの文化』を発刊した。10年後22号をもって終刊、やがて、啓蒙団体から研究団体が変わっていく。さらに'76年、小木美代子らによってこども文化研究所名古屋支部がうまれている。

しかし、'80年代以降、図書館を設置する自治体が増え、子どもの本に関する関心がある程度浸透していくにつれ、読書運動は初期の熱気といったものを失っていくが、新しい段階にはいったようにも思われる。それは、図書館の講座や、子どもの本研究会の講演などを契機に、

子どもと子どもの本を中心に、その地に根ざした様々なグループが誕生したことである。そこには、よみきかせ・おはなし・手作り絵本・人形劇・親子朗読・子どもの本の読書会・こども文庫などがあり、しかも、相互が結びついている場合も多い。その代表格は、'88年、図書館のボランティア講座への呼びかけから始まった、O.L.V.（大府市中央図書館ボランティアグループ）だろう。市内の自主グループを結び、学習会・講演会の企画・運営だけでなく、絵本や幼年童話のガイドブックの出版をするなど、精力的な活動を続けている。（織田まゆみ）

## 詩

愛知における児童文化としての「詩」について考えるとき、その中心に位置づけられるのは中條雅二（1907～）である。90歳を越えた現在も童謡同人誌『槐（えんじゅ）』を主宰しながら旺盛な創作活動をつづけているが、昭和初期から現在までの中條雅二をめぐる動きは、愛知における童謡・少年少女詩の中心的な活動であると言ってまちがいはない。

もちろん、中條以前に童謡・詩の創作にかかわる活動はすでに始まっていた。雑誌『兎の耳』（1919～'30）に掲載された童謡が名古屋で活字として発表された最初のものだと戸荻恭紀は述べている（『名古屋の童謡運動史』）が、愛知についても同様のことが言えそうである。この『兎の耳』に発表された童謡の音楽的側面について、戸荻はその質の低さを指摘しているが、詩の方も平井潮湖、鈴木夢平など注目される詩人が若干いたとはいえ、さほどレベルは高くなかったようである。ただし、この雑誌への投稿を起点に童謡を書きはじめ、やがて全国的に知られるようになった詩人に森たかみち（1911～）

がいる。『赤い鳥』の掉尾を飾る詩人で、『朝陽の中の祭』（'42）など童謡集が数冊ある。現在は東大阪市に在住、童謡創作を続けている。同じように後期『赤い鳥』に童話だけでなく童謡も数多く発表した半田市出身の新美南吉（1913～'43）、その南吉とも親交があり、雑誌『昆虫列車』等で活躍した蒲郡市の歌見誠一（1911～'74）なども中條たちの活動以前に活躍した人々である。しかし、これらの詩人たちはいずれも個人レベルでの活動であった。

それに対して中條雅二は、愛知、とりわけ名古屋市における組織的な童謡・詩の創造活動の中心にいたということになる。中條は元来民衆詩派の詩人であったが、1932年ころから童謡を書きはじめ、翌'33年『紙芝居』（2号で終刊）、ひきつづき『風車』を創刊、作曲家小股久の主宰する名古屋雛菊童謡会と連携しながら、童謡の立体化と普及に尽力した。東京の『童魚』や大阪の『童謡芸術』が詩・曲・踊三位一体の童謡立体化運動を提唱し、実践に入ったのが1935年である。『風車』はその2年前からすでに童謡立体化の動きを始めていたことになる。この先駆的な活動は日本童謡史上、注目すべきことである。その同人としては名古屋市出身の安藤徇之介、中條雅二とともにこの地域の童謡・詩をリードした水谷京（『こぶしの花さく道』'71、ほかに民謡詩集『飛騨はふるさと』など）をはじめ、小塚祝逸、小出いさむ、土屋彦一郎、中島金吾、榊原きよひこなどが活躍し、『風車』は2年後の'35年10月、第22号まで刊行された。その後、中條は『衣装と暦』『紫苑』などの同人誌を発刊しながら創作をつづけた。彼の詩集としては『ふるさとの道』（'34）『舗道のボタン』（'75）などがある。

大戦後、中條は作曲家中野二郎とのコンビで

童謡をNHKの電波に載せて発表、一方で『槐』を'63年に創刊して多くの詩人を育ててきた。その中には『砂かけ狐』（'87）『よごによご』（'92）『父ちゃんの足音』（'95）などの詩集で注目されている黒柳啓子をはじめ、藤井孝子（『ならんだ魚』'96）、佐藤潤子（『さくらゆき』'97）、奥村五月、川嶋政枝、清水とし子などの詩人が現在活躍している。また同じく同人の山田正巳は海外詩人の紹介とナンセンス詩の創作で独自の世界を誌面に展開している。

なおこうした組織的な動きのほか、小島祿琅（『海を越えた蝶』'91、『地球が好きだ』'92）、北原宗積（『五十センチの空』'84）、柘植愛子（『はずかしがりやのコジュケイ』'95）など、それぞれに魅力的な詩集を出している詩人がいることを付け加えておきたい。（畑中圭一）

### 児童 尾張三河童遊集 じぎ おわりみかわどうゆうしゅう

考証の趣味に生きた尾張藩士小寺玉晁（1800～'78）が編んだ『尾張童遊集』（1831・天保2）は、50種類以上の遊びと数多くのわらべ唄を収めた、江戸期の最大・最良の子ども遊びとわらべ唄の蒐集書であり、わらべ唄の採録範囲が悪口唄やからかい唄にまで及んでいる点、彩色のものも含む玉晁自筆の見事な挿絵が多く添えられている点に特色を持ち、当時の子どもの世界を視覚的にも現代に伝える貴重な資料である。

玉晁自筆本は確認されていないが、本書に、尾張藩士で俳人だった朝岡露竹斎（1794～1840）の『子もり歌・手まり歌』（成立年未詳）を併せて、尾張藩校明倫堂の教授を勤めた細野要斎（1811～'78）が正確に筆写し、「児童」の総題で一書としたものが現存する。要斎の措置は、子守歌を欠く『尾張童遊集』を補う効果をも持つ。名古屋温故会刊の活字翻刻『尾張童遊集』



(’34)、および未央社刊の復刻『児戯 尾張三河童遊集』(’77)がある。後者は、上笙一郎の詳細な解説と、温故会版を底本として校訂を加えた活字版を付す。(酒井 敏)

## 児童舞踊 じどうぶよう

### 洋 舞

児童舞踊は子どもたちの心身の発達、成長の過程に応じた訓練を通し、健康でのびやかな肢体と豊かな情操をはぐくんで、人間形成の基礎づくりを目標にしている。児童舞踊はわが国独特のジャンルである。東京では1952年(昭27)、各児童舞踊研究所が集まり、公演を開催している。当時、児童舞踊への理解度は低く、研究所を標榜することさえはばかれたほどだった。しかし、時代の推移につれ、ようやく児童文化の問題についての関心が高まってきた。この機会をとらえ、さらに新しい一步をふみ出して、質の高い作品づくりをと、名古屋で西弘美(故人)を中心とした名古屋児童舞踊センターが1976年(昭51)設立された。旧愛知文化講堂で「舞踊作品展」の開催が実現したのは、’77年だった。この公演には西弘美、岩野靖子、梶昌子、佐々良子、間博子の5人が出品している。

作品展は’78、’79年と続けられ、とくに’79年は「国際児童年」に当たっており、その記念事業「名古屋こども芸術祭」として取りあげられた。個人作品のほかに作品展のさらなる発展を図るため諸条件をクリアし、各団体による合同作品「白いブーツと14人」(吉永淳一作、山下毅雄作曲、松本吉正演出、間博子振付)を上演。児童舞踊界の在り方に一石を投じた意義深い作品として印象的であった。

児童舞踊家たちの熱意と力の結集は’78年の全日本児童舞踊中部ブロック(’86年に全日本

児童舞踊東海ブロックと改称)の設立という形で実を結び、’90年(平2)には東京での日韓交流児童舞踊創作公演に合同作品「ひとりぼっちのベースボール」(東山多加作、太田けんじ台本、梶昌子振付)を持って参加。この作品は各団体の児童から選出し、上演されたもので、日韓両国の子どもたちの交歓にも一役買った。

同ブロックは以後、会場の事情が許す限り、年1回の公演を行い、現在に至っている。

ところで、児童舞踊の将来性はどうか。不況による家計の圧迫、出生率の低下などが、研究生の減少傾向につながりかねない。それが現実になれば児童文化の推進も目標の達成も不可能である。青少年の暗い話題の多い昨今だが、子どもたちは間違いなく新世紀を担う人材である。だからこそ、優れた芸術作品によって豊かな心、感動、喜びを培い、人間として成長してほしい。これは舞踊家だけでなく、大人のすべてにかかわる課題であるはずである。(阿部孝子)

### 邦 舞

日本舞踊には、残念ながら児童を対象とする分野がない。日本舞踊には「子守」や「羽根の禿」、「手習子」のような子どもの踊りはあっても、すべては歌舞伎役者が扮して演ずるもので、その内容や歌詞は児童向けと言えないものが多い。したがって舞踊会で子どもが踊るのは成人の演目と変わらず、「藤娘」、「汐汲」などともかく、「お染久松」、「吉野山」、「妹背山」などの道行や遊里社会の題材でも、幼い子どもが意味も分からずせりふを言い、あどけなく踊るのを、観客はおしゃまな可愛らしさと見て喜んだのであった。

ようやく大正から昭和初期にかけて、児童劇や童謡運動の流れに添って児童舞踊の意識が芽生え、さらにレコードの普及につれて幼児のた

めに童謡による振付が行われるようになり、1927年（昭元）に名古屋舞踊連盟が発足。その第6回のプログラムには、田川 洽、西川里喜代（二代目）、稲垣信吉、南条きみ子、島田 豊、花柳寿徳、森田 鶴（二代目赤堀鶴吉）、工藤倉鍵、森下利幸、西川ひさ路、内山女里、と邦舞洋舞混成の名前が見える。演目は歌謡曲や童謡が多く、日本舞踊は常磐津や長唄の曲を子ども向きにアレンジしたものが含まれている。また、'49年（昭24）、花柳日左俊（当時寿俊）が名古屋合唱団ホールにおいて児童のための「童踊の会」を開催。山路曜生（筆名冬花）の作詞で、「藤むすめ」「しら鷺姫」など日本的童謡24曲を日比野箕之介、田村通子作曲で、ピアノ曲と箏曲によって発表した。現在も各流師匠がそれぞれ振を付けて児童に舞踊を教授しているが、洋舞は児童舞踊の分野が確立し、教育舞踊とともに発展しているのにたいして、邦舞では、群舞よりも独舞が主体であり、ことに古典舞踊は扮装が美しく、劇場での発表会では内容や歌詞の理解を越えて古典的な演目を喜ぶ傾向が現在に受け継がれ、その伝統的性格から独立発展することが難しいようで、現在では時代の変遷から日本的童謡が減少衰退し、ともすれば過去に逆行の傾向すら見られるようである。（山路曜生）

### 小説・童話 しょうせつ・どうわ

日本の近代児童文学の草分けといわれる『こがね丸』が巖谷小波によって書かれたのは、1891年（明24）である。それに先立って、『少年之玉』（鬼頭平兵衛本店'90）という作品が書かれている。これは立身出世の教育読み物で、文学的評価は分かれるが、この子どものための物語の作者は豊橋出身の教師（後に実業家）三輪弘

忠であった。

大正時代は日本の児童文学が草創期をぬけてようやく成立期を迎える時期だが、それを代表するのは、1918年（大7）鈴木三重吉の主宰する雑誌『赤い鳥』であった。文壇の一流の作家の手になる童話が次々と生み出された。2年弱の休刊ののち'31年（昭6）復刊した『赤い鳥』には、半田出身の新美南吉が活躍する。18才で童謡「窓」が採られ、'32年1月号には代表作となった「ごん狐」が誌上を飾った。'43年30才で夭折するが、その優れた詩魂は北の宮沢賢治と並び称され、ゆかりの地には「新美南吉記念館」が建ち、その業績をたたえている。

この復刊後の『赤い鳥』の編集に携わった森三郎も刈谷出身である。この森の作品は'95年（平7）刈谷市教育委員会・中央図書館の手によって森三郎童話選集『かささぎ物語』として編まれている。武田雪夫もこの雑誌に投稿し『踏切ごっこ』（子供研究社'37）などの幼年童話を残した。

1931年、新しい児童文学を求めて、雑誌『児童文学』を編集した佐藤一英は一宮出身。『児童文学』は宮澤賢治の「グスコブドリの伝記」などを載せ、先見性を示した。

1945年、戦争は名古屋はじめ多くの町を焼き払って終わった。失ったものは多かったが、以後50年平和な世相のなかで、新しい児童文学が成長したとっていいだろう。

まず福島佐松・中条雅二らによって「名古屋童話作家協会」が設立され、つづいて'57年、浜田広介・巽聖歌ら4人を招いて行われた「児童文学講座」が刺激となって「中部童話作家グループ」が結成される。これは'58年『中部童話作家』第一集を発行するが、メンバーには都島紫香を中心に、伊藤ひろし・北村けんじ・さ

いだてるこ・野田文子・山本知都子（『海がめ  
のくる浜』アリス館'75）らが名をつらねた。翌  
年は伊勢湾台風に見舞われ、第二集は'60年  
になって、山田もとが加わった。

その時期は、中央でいぬいとみこ・佐藤さ  
とるらが創作児童文学を携えて登場した、現代  
児童文学の幕開きの年でもあった。

『中部童話作家』は第4号（'62年）から誌名  
を『中部児童文学』と変えた。第13号を出し  
た'67年に、会は飛躍的に動き出した感がある。  
「日本児童文学者協会中部支部」として再発  
しようというもので、6月CBCホールで「児童  
文学講演と児童劇の会」を開き、中央から理  
事長の関英雄を呼び、280人の参加者を集めた。

支部長は都島が継いでいるが、新しい顔ぶ  
れとして、原昌・しかたしん・赤座憲久とい  
う時代のリーダーたちがそろそろ。赤座は『  
白ステッキの歌』（講談社'64）北村は『  
まぼろしの巨鯨シマ』（理論社'72）しか  
たは『むくげとモーゼル』（アリス館'72）  
等の創作で、原は『児童文学の笑い』（ア  
リス館'74）等の評論で理論的な方向での  
指導力をふるうことになる。

この後『やまとたける』（福音館'69）の  
阿久根治子や『千本松原』（あかね書房'71）  
の岸武雄が参加し、ここに中部児童文学会  
は愛知・岐阜・三重を包括する大きな児童  
文学会に成長する基盤が出来あがり、『中部  
児童文学』は全国に知られる有力な同人誌と  
なっていた。

'80年代から'90年初めにかけては、活  
動の成果が花咲いた年とっていいであろう。  
堀尾幸平『太郎樹』（中日新聞社'79）  
沖井千代子『歌よ川をわたれ』（講談社'80）  
井上寿彦『みどりの森は猫電通り』（講  
談社'80）、山田もと『水の歌』（小峰書  
店'81）、壮大なファンタジーの書き手  
として話題作を次々と発表するようになる

たかやの『太陽の牙』（偕成社'84）、江  
川圀彦『おれはカットン』（新日本出版'85）  
、江藤初生『カラスになったぼく』（小学  
館'85）。さらに寺沢正美『安城が原の水  
音』（ほるぷ出版'87）、鈴木まこと『疎  
開戦争』（『中部児童文学』59号'89）  
、細谷幸子『ボタンのひみつ』（童心社'89）  
、北原宗積『夕やけ色のトンネルで』（岩  
崎書店'91）、松原喜久子『鷹を夢見た少  
年』（文溪堂'93）が続いた。

折から時代は高度成長期で、児童書の発  
行が多かったことも確かだが、歴史・自然  
環境・戦争などの問題が、いろいろなジャン  
ル・方法で語られていった。

上記以外では、福永令三『クレヨン王国  
の十二月』（講談社'80）池原はな『きつ  
ねっ子先生』（講談社'81）北原和美『ゆ  
め風ふいたら』（新日本出版社'82）木村  
桂子『泣くなあほマーク』（ひくまの出  
版'85）御船テル子『藍に生きて』（理  
論社'85）も高い評価や人気を得た。

続く世代では原あやめ『さと子の見た  
こと』（講談社'86）、にしむらひろみ『  
ぼくいえでするんだい』（佼成出版社'89）  
、鈴木尋子『ぎじれんあい時代』（偕成  
社'90）、小林玲子『サケの子ピッチ』（  
KTC中央出版'96）らがいて、「まじょ  
子」シリーズの藤真知子、「スター誕生」シ  
リーズの鈴木もと子の作品は、子どもの人  
気の高さを持続している。

近年話題になった作品に、野村一秋『天  
小森教授、宿題ひきうけます』（あかね  
書房'95）、阿部夏丸『泣けない魚たち』（  
ブロンズ新社'95）がある。

愛知県に関係ある人で地元を離れ活躍  
する人も多い。今江祥智は作家になる前  
名古屋市の中学教師で、『ぼんぼん』（  
理論社'73）などの長編がある。西村滋  
は名古屋出身で早く孤児になり、

その経験を生かして書いた『お菓子放浪記』（理論社'76）が代表作。

文学の中央中心主義がなくなったとはいえないが、現在、この地方での書き手の層は確実に厚くなってきている。日本児童文学者協会編『県別ふるさと童話館・愛知の童話』（リブリオ出版'98）には、これからが期待される古水克明・大井美矢子・小松洋子・松浦孝子・うみのしほ・林美千代・大場好志子・長谷川たえ子らが執筆している。

同人誌も盛んで、『中部児童文学』『波紋』『ねこまんま』『扉』『ユニコーン』『ぐっぴいば』『おおぶの創作童話』『あかまんま』などが出ている。その同人誌に自分のテーマを書き続けるもの、種々のアンソロジーに載せたり、新しい試みに挑戦する者も多い。市川恵子・鈴木嘉子・木村公代・菅原朋子・高橋一元・山村陽子・大竹みさき・田口千代子・中村美穂・羽月由起子・南谷恵子・永吉江里子・たちもとみきこ・中河知子・中西ゆみ子・さわまゆみらが期待される。

最近の文学を志す若い人には新人賞も魅力だ。この地方でも東海文学振興会主催の「新美南吉文学賞」はすでに終わったが、1976年に出発した「子とともに児童文学賞」（財団法人愛知県教育振興会）は、『とべ！ ゆうたろうトンボ』（ひくまの出版'86）の金田喜兵衛、『ぼくの魔法のランプ』（ひくまの出版'88）の山本静夫を出したように、県内の教師と保護者に対象を限定しつつもこれからも新しい書き手を生んでいくだろう。

また夏には中部児童文学会が児童文学セミナーを開き、講演と実作指導で若い書き手を育て、大学での講義にも取り入れられている。

愛知の児童文学は、テーマにしても背景にしても、大阪や北海道のような強烈な地方性を発

揮することは困難のようだ。歴史文学や昔話といったものには郷土性は当然あるけれど、創作全体ではむしろ地域・方言・風習へのこだわりから抜けて、方法でのファンタジーやより普遍性のあるテーマに、それぞれの書き手が努力していると言っていいのではないか。（井上寿彦）（参考文献）『児童文学のふるさと』（文溪堂）、『愛知百科事典』（中日新聞社）、『日本児童文学大事典』（大日本図書）、『日本児童文学事典』（東京書籍）等。

### 少年之玉 しょうねんのたま

三輪弘忠著『少年之玉』全5巻は、1890年（明23）11月17日、名古屋の鬼頭平兵衛本店から出版された。この本によってわが国の創作児童文学は発祥、出発した。

著者三輪弘忠（1856～1927）は愛知県豊橋に生まれ、愛知県教員養成学校（現愛知教育大）出の小学校教員で、執筆時、宝飯郡第一高等小学校（現蒲郡南部小）の校長だった。「少年之玉」は『大日本教育会雑誌』少年書類懸賞の入選作であった。まず草稿ができると弘忠は、全校児童を集めて読み聞かせて反応を確かめながら、題材・展開・文章表現などを児童の発達段階に合わせるよう配慮して執筆した。

物語は三河出身の模範少年・水田国吉が貧乏にもめげず忍耐と勉強とによって後年、電気灯会社を興して成功する立身出世もの。当時の少年の科学的な夢と大志を描いて、多くの児童たちに愛読された。だが著者弘忠は、その後雑誌などに小論文などを多く発表しているものの、創作は「少年之玉」一作だけで終わったのは誠に残念というほかはない。（堀尾幸平）

（参考文献）堀尾幸平『少年之玉研究』（中部日本教育文化会）

## 人形劇 にんぎょうげき

太平洋戦争中ににも宇野喜代三郎らの人形劇の上演活動があったが、その活動が大きく開花し、高揚したのは戦後である。そして、戦後の人形劇は、次の三期に分けられる。

揺籃期（1947年～'62年）—'47年10月、東京の人形劇団「プーク」による名古屋公演を契機に、名古屋にいくつかのサークルが生まれた。'49年の記録では、職場サークル3、学生サークル3、社会人サークル4が活躍していた。それは近県をも刺激し、'51年には「東海地方人形劇協会」を発足させ、「第1回合同発表会」を開催し、運動として急速な拡がりを見せていった。

なお、「合同発表会」は、この期に9回開催されている。それら活動のなかで'54年に生まれた「かんらん」は、日本の非職業劇団草分けの一つとして現在でも活動を続けている。

フェスティバルの時代（'63年～'87年）—「プーク」の川尻泰司の提唱により、全国的に人形劇フェスティバル運動が展開された。これは全国の人形劇団体が別々の発表会をもつのではなく、「連帯的運動意識をもって、互いに支えあい、高めあおう」という呼びかけである。当地区ではそれに賛同し、従来の合同発表会を'63年よりフェスティバルに切り替えたが、その運動のなかから各地に劇団、サークルが輩出し、'67年には愛知で最初の職業劇団「むすび座」（名古屋）が、丹下進、田中寛次によって誕生した。また、「東海地方人形劇協会」は、ともにフェスティバルを催してきた静岡、岐阜、三重がそれぞれ独立したため、'69年には「愛知県人形劇協会」と改称、初代会長には瀬尾茂（1914～'90）が就任、この期の活動の中心的役割を果たした。合同発表会当時の会期は1日～2

日であったが、学生グループへも呼びかけた結果、フェスティバル最盛期の'76年には、前夜祭も含めて7日間、5会場で開催され、作品発表のみならず、研究会、討論会、講演会などが行われ、全国的にみても活発な地区の一つであった。その後'84年に協会と学生団体とが分れたが、愛知県人形劇協会フェスティバルは今日も続いている。

また豊橋では東三河人形劇連絡協議会により、'78年に第1回「豊橋人形劇まつり」が開催され、その後「東三河人形劇まつり」と名称をかえながら、'91年度に21回を迎えている。この間、職業劇団も'72年に「バンビ」（豊橋）、'83年に「パン」（名古屋）が誕生、また「むすび座」を退団した中堅たちが他県（岐阜、福井、神奈川ほか）で新劇団を興したのもこの時期である。

しかし'80年代に入ると、職業劇団の舞台は「おやこ劇場例会」や、幼稚園・保育園での上演がほとんどで、一般観客の眼にふれることが少なくなった。非職業劇団も、社会人グループは職場環境の変化による稽古不足や構成員の消長が激しく、次第に力を失っていった。

そのような発展と停滞がிரிまじった'80年代に活をいれたのが、'88年に名古屋で開かれたウニマ（国際人形劇人協会）世界大会であった。海外からも39劇団が来名、これを成功させるため、人形劇人だけでなく多くの愛好者が準備と公演のスタッフとして参加し、そのことがやや沈んでいた人形劇状況に動きを与えた。

再生期（'88年～現在）—そうした状況をうけて中部本部ビルを建設中であった安田火災海上保険(株)は、企業メセナの一環としてビル19階に「人形劇場ひまわりホール」と名付け、人形劇専門劇場として'89年（平成）10月にオープ

ンさせた。そのホール運営をサポートし、また拠点として活用するための組織として、劇団・サークルといった創り手を中心に、観賞者も含めて、愛知人形劇センターが発足した。

このことによって愛知人形劇状況が変化した点は①月 1 回以上、人形劇公演がもたれること、②多彩な講座が定期的に行われること、③年 1 回、脚本賞の募集があること、④人形劇セラピー企画がもたれることなどである。

組織規模としては、'97 年度をみると、団体会員 77 団体、個人会員 111 名、観賞だけの会員 177 名となっており、毎年秋には 3 日間のフェスティバルが開かれ、観客として約 3,000 名が参加している。

人形劇センター以外の組織では、前述の愛知県人形劇協会が創り手だけの団体として、人形劇センターとは違う歩みをしている。「にしはるパペットフェスタ」は、'99 年に第 8 回を迎えるが、協会はその実行委員会の中心を担い、また'98 年度には安城と春日井・半田で第 30 回フェスティバルを主催している。また'85 年に生まれた「お母さん人形劇協議会」も、'99 年には第 14 回フェスティバルを開き、また東三河地区では「ばんび」が中心となって行ってきた「とみやま人形劇まつり」は、人口 200 人の村で開かれるフェスティバルとして注目を集めてきたが、'89 年～'97 年の 9 回で幕を閉じた。

またこの間、新たな職業劇団として、'94 年「丹下進オフィス」、「夢知遊座」が、'97 年には「よろず劇場とんがらし」が誕生した。

(須藤三男)

## 補 填 (文化関連施設)

愛知県歯科医師会 歯の博物館 あいちけんしかいしかいはのほくぶつかん

1989 年(平成元)に、愛知県歯科医師会会長宮下和人により創設される。ただし現館長は山口晴久。歯の博物館は全国でも数少ない施設で、今日まで適切な施設が少ないために、数多くの歯科に関する文化的遺産が姿を消しつつある事実には歯止めをかけ、歯科医療の変遷を振り返る歴史的資料の保存、収集にとどまらず、口腔衛生思想を図り、早口腔機能の平易な解説、ならびにコンピュータゲームによる学習コーナー、咬合力を測定する体験コーナーなど、歯科全般にわたる未来展望にいたるまで幅広く充実した内容となっている。開館以来、年 1～2 回の特別企画展を開催し、動きのある博物館を目標にし、来館者には質問用紙を配布し、「歯の博物館運営委員会」スタッフが回答している。72m<sup>2</sup>とミニ博物館ではあるが、歯を大切に一生自分の歯で噛み、健康や美容の維持、姿勢や情緒・安定にも歯がいかに重要であることを再確認できる施設である。

所在地 〒460-0002 名古屋市中区丸の内 3 丁目 5-18  
愛知県歯科医師会館 3 階

☎ (052) 962-8020、FAX (052) 951-5108

E-mail 愛知県歯科医師会  
<ada8020@mvd.biglobe.ne.jp>

アクセス 地下鉄、桜通線「久屋大通り」

荒子川公園ガーデンプラザ あらかがわこうえんがーでんぷらざ

荒子川公園は、名古屋市が市民に親しまれる総合公園として、1985 年(昭 60)に開園。面積 26 万 m<sup>2</sup>。この公園の核となる施設が「荒子

川公園ガーデンプラザ」で、'93年(平5)に開設。公園内には、ラベンダー園・日本庭園・サンクガーデン・多目的広場などのほか、学校緑化・生垣・公園樹・街路樹などの見本園があり緑化の参考となる各種の樹木や植物が植栽されている。また、わんぱく冒険広場・ポートベイ(貸ポート)があり、子どもと遊ぶことができる。レクリエーション広場では、バーベキューができる。ガーデンプラザでは、花や樹木に関する展示会や講習会を開催。花や樹木の育て方の相談ができる「緑の相談所」もある。夏休みには「親子教室」があり、親子で参加することができる。イベントは、春の特別展・ラベンダーフェア・秋の特別展を行い、とくにラベンダーフェアは遠くから多くの人を訪れる。

所在地 〒455-0055 名古屋市港区品川町2丁目1-1  
☎ (052) 384-8787、FAX (052) 384-5664  
無料  
アクセス 地下鉄「東海通」駅、市バス「荒子川公園北」、地下鉄「高畑」駅、市バス「善北町」

### 市営交通資料センター しえいこうつうしりょうせんたー

市バスや地下鉄など公共交通に親しんでいたため1996年(平8)3月27日に名古屋市交通局が設置した。現センター主任は吉岡弘晴。一番人気は地下鉄の運転が体験できる「列車シミュレータ」。本物の運転台を使っていて、迫力満点。そのほか、体験コーナーとして、HOゲージ地下鉄ジオラマの運転、TVゲーム「電車でゴー」や、パソコンコーナーがある。このコーナーではオリジナル・デザインの市バス紙模型を作ったり、資料検索、クイズ、ビデオライブラリーで楽しむことができる。書架には交通関係の行政資料や図書、雑誌、子ども向けの乗り物絵本などが並んでいて、自由に閲覧でき

る。展示コーナーには常設と企画の展示がある。

所在地 〒460-0002 名古屋市中区丸の内三丁目10番4号 丸の内会館6階  
☎ (052) 971-2615 FAX (052) 971-2616  
アクセス 名古屋市交通局ホームページ  
<http://www.kotsu.city.nagoya.jp/>  
無料、地下鉄「久屋大通」「丸の内」駅  
[参考資料] リーフレット類(同センター刊)

### 名古屋市生活衛生センター なごやしせいかわ えいせいせんたー

1969年(昭44)に、それまで各保健所に配置されていた衛生班を集中し「防疫センター」として発足させた。発足当時は伝染病対策とネズミ衛生害虫駆除業務が中心であったが、近年の都市環境の変化や昆虫に対する意識の変化に対応すべく、'86年から昆虫ふれあい事業を開始し、昆虫及び地域環境理解のための啓発事業に取り組んでいる。'95年(平7)には庁舎の改築に合わせて、1階に展示室(愛称「ムーシウム」)、2階に視聴覚室を開設し、啓発事業に活用している。ムーシウムにはハチを始めとした害虫や身近な昆虫の標本を展示するほか、クイズやゲームで遊びながら勉強できるコーナーを設けている。また、視聴覚室では各種講習会を始め、子どもを対象にした昆虫の話やビデオ映写を行っている。このほか、移動相談車(愛称「ファール号」)を配備し、市内の幼・保育園や小学校などを訪問して昆虫教室・昆虫展示などを行っている。(渡辺一男)

所在地 〒464-0071 名古屋市千種区若水一丁目2-33  
☎ (052) 721-0191 無料  
アクセス 地下鉄「今池」駅、市バス「東市民病院前」  
[参考資料] リーフレット類、事業概要  
(同センター刊)

### 名古屋市秀吉清正記念館 なごやしひでよし きよまさきねんかん

1967年（昭42）5月に、「名古屋市豊清二公顕彰館」として開設された。豊臣秀吉・加藤清正に関する資料を収集し、保管・展示する施設として活動を続けたが、'78年10月からは、名古屋市博物館の分館となった。その後、施設の老朽化などのため、新たに建設される中村公園文化プラザに入ることになり、'91年（平3）5月、「名古屋市秀吉清正記念館」として改めて開館した。立地する中村公園は、秀吉や清正にゆかりの史跡が多く、地域に根ざした特色ある博物館をめざして活動している。常設展では、秀吉・清正とその時代を扱い、秀吉の事績や、清正をはじめとする尾張の武将についても紹介し、文書や画像、武具、出土遺物などを展示している。解説用の映像も用意してある。また、壁面にずらり並んだ肖像画パネルから名前をあてる、「私はだれでしょう—戦国時代に生きた人々—」は、クイズ感覚で楽しむことができる。（田中）

所在地 〒453-0053 名古屋市中村区中村町字  
茶ノ木25

☎ (052) 411-0035 FAX (052) 411-9987

アクセス 地下鉄「中村公園」駅

〔参考資料〕『名古屋市秀吉清正記念館収蔵品目録』、  
「名古屋市秀吉清正記念館常設展」（パンフ  
レット）

### 名古屋能楽堂 なごやのうがくどう

名古屋市は、能楽を始めとする伝統芸能の振興と文化交流の推進を目的として、1997年（平9）4月に名古屋城正門前に開館した。建物の特色は、能楽鑑賞などにふさわしい日本建築様式の優美な外観、木の香漂う内装、最新の照明・音響設備を備えた総木曾檜造りの能舞台と630

席の広々とした見所（けんしょ）などにある。また、能楽を紹介する展示室では能楽の歴史や魅力をパネルやビデオでわかりやすく紹介しているほか、能装束、能面、本舞台を彩る鏡板などを展示している。なお能面においては、誰もが実際に顔にかけることができる体験コーナーもあり、能を身近に感じることができる。'99年4月からは本舞台の使用の無い日について、日頃見ることのできない能舞台を一般公開している。

所在地 〒460-0001 名古屋市中区三の丸一丁目  
1番1号

☎ (052) 231-0088 無料

アクセス 地下鉄「浅間町」「丸の内」「市役所」駅

〔参考資料〕リーフレット（同館刊）

## 補 填（文学・文化）

### 阿 部 孝 子 あべたかこ

新聞記者・中日新聞社特別嘱託。舞踊（洋舞）1932～ 名古屋市生まれ。愛知県立女子短期大学国文科卒。〔経歴〕1996年（平8）から名古屋を中心とする洋舞関係の舞台の批評文を音楽・舞踊・演劇・映像の総合専門紙『オン・ステージ』新聞（東京）に毎月執筆中。児童舞踊についての批評活動も行っている。また、舞踊批評家協会（事務局・東京）の会員として活動している。〔趣味〕文化芸術関係の鑑賞。〔所属〕舞踊批評家協会会員

〔住所〕〒460-0026 名古屋市中区伊勢山  
1-9-13 伊勢山ハイツ 401

### 市 川 櫻 香 いちかわおうか

本名・加藤えみ子。舞踊家、名古屋むすめ歌



舞伎代表。歌舞伎、舞踊（日本）、常磐津 1959～名古屋市生まれ。常磐女学院卒。（経歴）邦楽家であり、中部邦楽総合教室の主宰者でもある祖母と母のもとに育つ。あらゆる古典芸能の師匠の稽古場が家であるため、伝統芸能全般の指導を受ける。1959年（昭34）生まれの私にとって、当時の学校における音楽教育は、邦楽とともに育つた私には大変苦痛な状況だったが、この境遇が現在の活動の基盤となっているように思う。3才より常磐津浄瑠璃公演に出演、10才より舞踊会に立方として出演した。18才より劇団新派名古屋公園に黒みす唄方、舞踊会に浄瑠璃方として出演。家業の定例演奏会は年4回あり、この頃より裏方（制作）に携わる。また舞踊家として演奏会での特別出演も多くなる。日本舞踊西川流師範となる。’83年にむすめ歌舞伎を結成、8年後、市川宗家より市川姓を許される。’92年より次世代へ古典の紹介と伝承活動を行う。’97年、市民参加歌舞伎30名が全員主役として出演し、新基軸な手法での企画演出をした。’98年に大阪中座にて歌舞伎公演に参加、’99年には国立文楽劇場にて常磐津公演会に出演。なお、この間中学にて選択授業「歌舞伎」の講師をつとめたり、また高校生が演じる歌舞伎をも指導、舞踊公演では道具のない舞台を企画演出（小娘会）を試みた。むすめ歌舞伎公演の子役に参加出演のため、小学生の指導にもあたっている。（業績）「人の執念（おもい）は鬼にも蛇にも」構成・出演（’89）、第50回記念芸術祭主催公演出演（東京・国立劇場）（’95）、論文「名古屋むすめ歌舞伎」、世界劇場会議国際フォーラム’97（’97）、論文「イメージ遊びとしての歌舞伎」、世界劇場会議国際フォーラム’99（’99）、坪内逍遥生誕140年記念「お夏狂乱」主演（’99）、第7回 TARG 賞 文化・芸術部門

にて授賞（’93）（所属）関西常磐津協会、愛知芸術文化協会

（住所）〒460-0012 名古屋市中区千代田三丁目10番3号

小木曾 眞 おぎそまこと

図書館司書、名古屋市西図書館奉仕係長。文化運動（図書館、子ども文庫）1944～岐阜県瑞浪市日吉町生まれ。立命館大学法学部卒、図書館短期大学別科修了。（経歴）1968年（昭43）、図書館短期大学別科修了後、名古屋市に司書として採用され、翌年、新館要員として瑞穂図書館に配属された。子ども文庫に興味をもち、市内文庫を仲間と訪問。’72年に、交流の場として「文庫のつどい」を発足させる。’73年、日本図書館協会評議員となる。’74年、瑞穂図書館児童担当。予約を手掛け、児童図書選択論に一石を投じる。「ピノキオ」問題の処理に当る。’77年、天白図書館開館の準備。「マンガコーナー」を担当した。（業績）『図書館の自由と検閲』（共訳）日本図書館協会（’80）、『図書館サービスの拡大を求めて』（共訳）図書館問題研究会（’83）、「子どもの予約と読書の自由」（『図書館の自由』第13集所収、日本図書館協会 ’94）、「名古屋市内の子ども文庫」（『図書館界』Vol. 44 No. 3 ’92）、「子どもに選択権を一児童図書館員の立場から」（『現代の図書館』Vol. 14 No. 2 ’74）（趣味）散歩。（所属）日本図書館協会評議員、日本図書館研究会評議員

（住所）〒467-0062 名古屋市瑞穂区山下通5-5 LM 瑞穂公園212

尾崎 士郎 おざきしろう

作家。文学（創作）1898～1964 愛知県幡豆郡上横須賀村（現在の幡豆郡吉良町）生まれ。

早稲田大学政治科中退。(経歴) 旧家辰巳屋に生まれ、旦那衆の息子として特別扱いされて育つ。横須賀尋常小学校の頃にはすでに文学者を志望し、回覧雑誌を作成したり、夏目漱石を愛読したという。愛知県立第二中学校(現岡崎高校)に入学すると、どもり克服のために習得した雄弁術や落第して同級生となった大須賀健治の影響で、政治に関心をもつようになる。1916年(大5)早稲田大学予科政治科に入学。同年父嘉三郎死亡。翌々年に長兄重郎が公金横領を苦に自殺。尾崎家は没落し、一家で上京する。これ以後30年間故郷を訪れたことはない。1921年(大10)に文壇にデビュー。1935年(昭10)『人生劇場』〈青春篇〉が絶賛されて一躍流行作家となる。戦時中は、陸軍情報部のペン部隊、陸軍報道班員として活躍、戦後に公職追放処分をうけるが、文壇に復帰し、晩年まで執筆しつづける。1964年(昭39)に文化功労者として顕彰。彼の文学は、男のロマンや悲壮感を描いた〈硬派の文学〉といわれている。また余技ではあるが、少年小説・時代小説・伝記・再話など、子ども向けの作品を創作している。『少年倶楽部』の連載を機に、戦前は無名時代に、戦後は処分中から晩年にかけて主に執筆し、単行本で20点以上になる。大衆性をもった理想主義的な作品が多い。その一つ『少年人生劇場』は、『人生劇場』〈青春篇〉の作品設定を生かし、作者の故郷を舞台にした少年小説であり、ふたたび改作されて『雲の中から』となる。(服部裕子)(業績) 大人向けの作品—『尾崎士郎全集』全12巻、講談社('65~'66)、子ども向けの作品—『成吉思汗物語』偕成社('43)、『黒林の剣侠』東光出版社('48)、『少年人生劇場』東光出版社('50)、『雲の中から』同和春秋社('54)(参考) 都築久義『実説・人生劇場』白馬出版

1972、尾崎士郎「私の履歴書」(『日本経済新聞』1963.2.7~7.24)

## 金 沢 嘉 市 かなざわかいち

教師、教育研究家、児童文化活動家。教育・口演童話 1908~1986 愛知県宝飯郡蒲郡町平田村(現蒲郡市平田町)生まれ。青山師範学校二部(現東京学芸大学)卒。(経歴) 6人兄弟の長男として農家に生まれる。小学校の頃は有名なガキ大将であった。2年生のとき、よく童話を読んで聞かせてくれた赤松先生にあこがれ、教師を志望するようになる。母親からも仏教説話を聞かされて育ったが、蒲郡劇場で巖谷小波の口演童話を聞いてとくに感銘をうける。農家の後継ぎとして蒲郡農学校(現愛知県立蒲郡高校)に入学。しかし教師になる夢を捨てきれず、1927年(昭2)青山師範学校二部(現東京学芸大学)へ進学する。卒業後東京都の小学校教師となり、以後41年間教職につく。教師時代、久留島武彦から直接指導をうけ、教室童話研究会の結成に参加。口演童話の活動に没頭するが、小原国芳の学校劇運動にも関心をもち、学校劇研究会に所属する。機関誌に口演童話の論文や口演童話劇、学校劇の脚本などを発表して注目される。敗戦直後には東京児童文化連盟を結成。文部省の児童文化委員に就任。また戦後社会科(歴史)の指導者として、教科書の執筆、ラジオやテレビの出演、『日本の子ども』の時事解説の担当をする。退職後も教育評論家、「子どもの文化研究所」所長として子どもの「人権」「平和」「自然」を主張、さらに「子どもたちに語りの世界を」の運動を提唱する。戦前戦後を通して児童文化運動に情熱を燃やし、講演活動だけでも2千回以上に及ぶ。(服部裕子)(業績) 『ある小学校長の回想』岩波書店('67)、『つし

丸のそうなん』あすなろ書房（'72）、『一まいの卒業証書』あすなろ書房（'77）、『子どもたちに語りの世界を』（共著）童心社（'85）、『金沢嘉市の仕事』全5巻 あゆみ出版（'88、'89）〔所属〕元日本子どもを守る会（理事）、子どもの文化研究所（所長）

〔参考〕「金沢ヒューマン文庫叢書」I・II 同叢書編集部 1993～'94、「金沢嘉市・教育と文化をたどる」（『子どもの文化』1986.4～11）

### 亀山半眠 かめやまはんみん

元口演童話家、名古屋新聞記者。口演童話 1878～1945 岐阜県東濃明智生まれ。〔経歴〕扶桑新聞から名古屋新聞の記者となり、1911年（大5）6月末のある夕刻に、同僚の大西巨口を誘って中区東田町（現新栄町）の白山神社で、3晩続けてお伽噺会を開いた。これが名古屋地域で自主的に行われた最初の口演童話活動と言われている。子どもたちの反応が予想以上だったので、半眠は巨口のほかに浜田南国を加えて名古屋新聞お伽団を結成し、お伽噺会の会場と日時を新聞で知らせ、お伽団をこの地域の人気者に仕立てた。お伽団を呼ぶことが、子ども会や同窓会の流行となったのである。大正末年、名古屋新聞を離れ JOCK の設立から参加した。教養部門の責任者となると、口演童話のラジオ放送を目的としたアンテナクラブを組織したり、口演童話以外にも児童劇や音楽童話劇など様々な子ども向け番組の制作・放送に尽力した。浜松放送局長・小倉放送局長などを経て、'42年（昭17）愛知県銃後児童文化連盟が組織されたときに、児童部の理事になり、また、名古屋童話研究会の会長にもなった。

半眠の語りは「ボクトツとした巧まない話し

かたで、つかわれることばにユーモアがあった」という。巨口が中心となって名古屋新聞から出した児童文芸誌『兎の耳』には、「世界戦争物語」「死の世界」など冒険小説や探偵小説などが9編連載されている。「死の世界」など7編のさし絵は長男の巖（後名古屋タイムズ社長）が書いている。'45年終戦を見ずに肺炎のため逝去。'46年中区の乾徳寺で追悼会が行われ、'51年には「亀山半眠先生記念こども会」が開かれ、久留島武彦や舞鶴の桂林寺の竹村全機（半提）も参会した。（磯部孝子）

〔参考〕都島紫香「名古屋地方で活躍した口演童話家の追想」1（『童話人』中部童話人協会、1950年11月）

### 川上越子 かわかみえつこ

絵本作家。絵画・文学（制作）1938～台北市（台湾）生まれ。女子美術大学短期大学部卒。〔経歴〕1964年（昭39）、夫の留学に伴い渡独、ゲルマンの神話や昔話に多く出会い興味をもった。3年後ボンで長男を亡くしたあと帰国。これらのことが絵本を描く動機となった。20冊目の出版を終えた'99年の現在、もう若き母だった頃の想いはないが、テーマが昔話、創作いづれにしても、人の心が共通して知っているなつかしさ、美しさ、おかしさや、悲しさを子どもだからといってかみくだかず、できるだけ自分の感情も吐露せず、描写していきたいと思っている。〔業績〕『みんなおいで』福音館書店（'69）、『少年少女世界名作全集グリム名作集』主婦の友社（'77）、『ことろのぼんば』福音館書店（'90）、『やさい』鈴木出版（'95）、『ハーブと野菜に日は暮れる』架空社（'98）

〔住所〕〒480-1103 愛知郡長久手町岩作権田38

## 小池 長 こいけたける

元口演童話家。口演童話 1901～'74 愛知郡春木村（現東郷町春木）生まれ。愛知県第1師範学校卒。（経歴）小池長は、小学4年生のときに長江鎌次郎の語る「金馬將軍」の話を聞いて感動し、それ以来口演童話の実践が大きな目標となる。代用教員を経て、愛知県第1師範学校に入ると、ますます童話の訓練に励んだ。卒業と同時に名古屋市南区の呼続小学校の訓導（教師）となり、希望通り子どもたちを前に夢中で話した。夜や休日には子供会や仏教日曜学校でも語った。'25年（大14）、講堂のある門前小学校に赴任すると、毎年久留島武彦や巖谷小波など著名な口演童話家を招いて童話会を開いた。ラジオ放送では、'25年に名古屋中央放送局（JOCK）から「金角大王」を放送するなど、その初期から出演し、アンテナクラブのメンバーともなった。'27年（昭2）夏には、日本が占領していた朝鮮・満州を巡回し口演した。帰国後、講演旅行の報告会を行い、やがてこれが名古屋回字会に発展していった。1929年（昭4）に7年勤めた教職を退き、翌年、私立雲竜幼稚園の園長となり、'37年（昭12）にも東京世田谷区に響幼稚園を発足させた。'30年、これまでの歩みを『話道のあしあと』にまとめた。翌'31年、雲竜幼稚園で久留島武彦を講師とした3晩連続の話方講習会を開いた。'32年に、大日本家庭教育研究会を設立して機関紙『家庭の響』を'42年まで刊行。'34年には、念願の北アメリカへの視察・講演旅行を実現させた。'35年に帰国すると、アンテナクラブのメンバー等によって盛大な「小池先生帰朝記念コドモ大会」が開催された。

戦時期には、'37年（昭12）新愛知新聞社の囑託になり、同時に海軍派遣の従軍記者となっ

た。上海などの激戦地へ派遣され、戦地から戦闘や兵士の状況などの報告をしたが、'42年に退社した。一方、'42年日本少国民文化協会が発会すると、小池長は参事として加わり、各地で生産活動に加わる子どもたちのところへ派遣され口演したり、現地の取材をした。名古屋で、口演童話家の研究団体の名古屋童話研究会が組織されると、一般童話部の部長となった。戦局の進展とともに、15年余り携わった幼稚園経営は閉鎖せざるをえなかった。

戦争後は、'49年（昭24）に中部日本新聞社の講演講師となり、童話口演だけではなく一般向けの講演でも多忙となった。口演童話では、'48年の名古屋童話協会設立に発起人として尽力し、後年、同協会の会長にもなった。'52年全国童話人協会が組織され、第1回童話教育講座を名古屋で開くのを機に、都島紫香とともに月刊紙『童話人』の発行を開始した。長は、『童話人』に「童話の話し方」などの連載を続け、20年以上250回継続した。

'60年（昭35）に、久留島武彦亡き後、全国童話人協会の委員長となり、口演童話の振興にも貢献した。'61年には、第1回久留島武彦文化賞を（助）日本青少年センターより与えられ、翌年、（助）社会教育協会より社会教育功労者として表彰された。また'63年には、意見交換と親睦を目的とした会合「息の会」を毎月1回開くことにし10年以上続けるなど、'74年に歿するまで日々研鑽を積んだ。（磯部孝子）

（参考）『童話人（改題、愛語）』（'76年7月～11月）

## 霜田 美津子 しもだみつこ

愛知県立保育大学校非常勤講師。文化活動  
1940～ 奈良市生まれ。奈良女子大学文学部教

育学科卒。〔経歴〕3人の子どもの子育てのなかで、子どもの本と出会い、その後、福岡県在住の頃、家族（のちに地域）文庫を開く。岡崎に転居後、仲間とともに岡崎子どもの本研究会をつくった。児童センターや図書館、保育園や学校で本を読む会（読み聞かせ）を持ち、日本子どもの本研究会にも所属し、本の普及活動とともに出版される子どもの本の書評にもかかわってきた。岡崎市や近隣市町村の公民館で、母親のための子どもの本の講座も担当している。〔業績〕『乳幼児の表現活動 あそび動き』（共著）黎明書房（'59）、『続どの本読もうかな？1900冊』（共著）国土社（'98）、『のれたぞ！一輪車』（共著）童話 国土社（'90）、『お母さんが選んだ128冊の絵本』（共著）創元社（'93）、『教師学入門』（共著）朝倉書店（'89）〔所属〕日本子どもの本研究会、岡崎子どもの本研究会  
〔住所〕〒444-0075 岡崎市伊賀町4-33

### 鈴木 宣 隆 すずきのりたか

人形劇製作・演出・俳優、人形劇団夢知遊座代表。演劇（人形劇）1955～岐阜県中津川市生まれ。高校夜間部中退。〔経歴〕人形・舞台美術を目指し、1975年（昭50）に人形劇団むすび座に入団。役者としても活躍し全国のおやこ劇場などを巡演する。30才を過ぎ幼児向けの作品に関わるようになり、独自に幼児作品の演出を学ぶ。'93年より独立の準備をはじめ、'94年8月に夢知遊座を旗揚げ。現代の悩める子どもたちへ悩める大人として目をそらさずまっすぐメッセージを届けたい、そんな思いのオリジナル作品を創り、上演活動をつづけ少しずつ全国へも広がっている。〔業績〕「悟空誕生」主演〈東京都児童演劇選定優秀賞受賞〉（'79～'82）、「西遊記」主演〈厚生省児童福祉文化賞受

賞〉（'81～'85）、「とんぼの運動会」（演出）〈'92年度中央児童福祉審議会特別推薦作品〉（'92～'93）、「雨ふらんでケロ」「たべたいなァ～」（作・演出）（'93～）、「たぬき橋」「ワニ太とカバ子のバッキアロー」（作・演出）（'95～）〔趣味〕読書・美術〔所属〕元人形劇団むすび座、夢知遊座

〔住所〕〒459-8002 名古屋市緑区森の里2の6 森の里荘10棟514号

### 鈴木 夢 平 すずきむへい

本名・鋭之助。元口演童話家、名古屋新聞部記者。口演童話、マンガ 1891～1952 丹羽郡布袋町生まれ。津島中学校（当時三中）卒。〔経歴〕津島中学校卒業後、西成小学校につづいて古知野小学校の教員となるが、1921年（大10）に教職を投げうって『兎の耳』の編集に参加し、口演童話界にも地歩を築いた。口演童話については、話術ばかりに気を取られないで「純素な子どもの気持ちになりきってひたむきに燃焼する」ことが、童話家にまず必要なことであると主張した。なかでも、絵を描きながら童話を語る絵ばなしの分野を開いたほか、童謡、俳句と俳画など多彩な才能を発揮した。また、JOCKの亀山半眠が呼びかけたアンテナクラブの一員でもあった。'48年（昭23）名古屋市教育局の働きかけで名古屋童話協会が発足すると理事となり協会運営に参加、5月16日中京劇場にて催された「発会記念こども会」には漫画絵ばなしを演じた。また当日は、夢平作詞で永井楽音作曲の「あんずの歌」の歌唱指導も行われた。

中部日本新聞社（名古屋新聞社と新愛知新聞社が合併）を退職後、中部日本倶楽部発行の月刊誌「CBC」の主筆となった。また、1949年

(昭24)名古屋市教育委員会が市制60周年記念として募集した子ども読物の入選作品集「友だち文庫」の表紙とさし絵を担当し、童謡も寄稿した。'52年食道癌のため逝去。名古屋童話協会は、翌年名古屋市立幅下小学校において「鈴木夢平をしのぶ子供大会」を開いた。(磯部孝子)〔参考〕都島紫香「名古屋地方で活躍した口演童話家の追想」2(『童話人』中部童話人協会、1950年12月)

### 玉屋庄兵衛 たまやしやうべえ

九代目、本名・高科庄次。からくり人形師。伝統文化(からくり人形) 1954～愛知県春日井市生まれ。名古屋市立桜山中学校卒。(経歴)1979年(昭54)、父親である七代目玉屋庄兵衛に入門。玉屋庄次郎名で本格的な人形修業に入る。そして、父、兄(八代目)とともに各地のからくり人形の制作・修復を手掛けてきた。'89年に父、'95年に兄の死で九代目玉屋庄兵衛を継ぐ。その後はただ一人でからくり人形の制作・修復に全力を傾けてきた。その一方でからくりの技術を生かしたオリジナルの新作「からす天狗」山車からくり人形の制作や、江戸時代に作られたと言われる座敷からくりの「茶運び人形」田中久重(からくり儀右衛門)作の「弓射り童子」などの完全復元を成し遂げてきた。また、これら制作の合い間を縫って子どもたちを中心に広く一般の人たちにも伝統文化の大切さを知ってもらおうといろいろの場所ではからくりの実演、操り方の体験をしてもらったり、その仕組や制作の苦労話など講演して奔走している。(業績)歴代玉屋庄兵衛「からくり人形の世界展」開催('98)、京都祇園祭「螭螂山」演出からくり操作('81)、山車からくり人形「からす天狗」新作制作('97)、田中久重「か

らくり儀右衛門」の弓射童子、完全復元('98)  
〔趣味〕ゴルフ、スキー

(住所)〒462-0857 名古屋市北区紅雲町39-2

### とりい かずよし とりいかずよし

本名・鳥居一義。漫画家。漫画、イラストレーター、エッセイ 1946～愛知県額田町生まれ。額田町立形埜中学校卒。(経歴)1965年(昭和40)19歳で上京。'67年、漫画家赤塚不二夫氏に師事。赤塚の主宰するフジオプロでアシスタントをする傍ら、'69年、『別冊少年サンデー』に読み切りギャグ漫画「くちなし犬」でデビュー。それからは週刊誌1本、月刊誌3本の連載を抱えながらのアシスタント生活をする。'71年、独立しとりいスタジオを設立。それを機に、作品を『週刊少年ジャンプ』の「トイレット博士」1本に絞り、以後7年間連載を続ける。'77年『週刊少年マガジン』に「うわさの天海」、『週刊少年チャンピオン』に「くたばれ!とうちゃん」その他、隔週誌、月刊誌などに連載を開始する。

'79年、気分一新、仕事を整理して生まれ育った愛知県に移住する。仕事も一新。それまでの少年誌一辺倒、ギャグ漫画一筋という作品から180度転じ、青年誌に劇画を描く。'80年、ヤングジャンプ、'83年『ビッグコミックスペリオール』に連載。'87年以降からは、中日新聞社の「月刊ドラゴンズ」、中部版『ビーイング』の連載、在名テレビ局の仕事など、活動の重心が地元愛知県となっていく。'97年、NHK名古屋70周年事業の『人物で語る東海昭和 문화史』(風媒社刊)の上梓に参加できたことなどは微力ではあるけれど、地元への貢献、地元での活動に、生きがいを実感しているところである。今後、愛知から、日本全国、いや世界に向けてメッ

ページを送り続けたいと思っている。〔業績〕『トイレット博士』全30巻（「週刊少年ジャンプ」連載）集英社（'71～'76、上下巻'97）、『うわさの天海』全7巻（「週刊少年マガジン」連載）講談社（'67）、『トップはオレだ!!』全7巻（「ビッグコミックスペリオール」連載）小学館（'88）、「つれづれ手帳」（エッセー、新聞連載）毎日新聞社（'97）〔趣味〕映画、読書、野球、漫才、落語鑑賞〔所属〕名古屋テレビ番組審議委員

〔住所〕スタジオ 〒460-0013 名古屋市中区  
上前津2-9-16 ビラ三秀403

## 旗 ひさし はたひさし

放送作家、劇作家。演劇、放送（ラジオ）  
1923～ 愛知県春日井市生まれ。拓殖大学商学部卒。〔経歴〕主にラジオの子ども向け番組の脚本を書いてきた。'55年（昭30）頃より民放番組の脚本を書くことにはじまり、'62年頃より主にNHKラジオ脚本に移った。なかでも「お話でてこい」は、24、5年つづいた長寿番組である。後にここから選んでカセット童話として自費出版をした。また児童劇脚本をも手がけ、地元劇団「冒険舎」のために「ザ・タイムスリップ」など数本を書いた。ボランティア活動として、'85年より春日井市の朗読研究会のために、「いじめっ子風」など、10本以上のジャンボ紙芝居を作った。〔業績〕「ピッポピッポボンボン」（脚本）NHK（'86）、「小さな組合旗」（脚本）『テアトロ』（'55）、「ザ・タイム・スリップ」（台本）「冒険舎」上演（'58）、「木霊の歌」（台本）（'59）、「お話でてこい」（脚本）NHK（'75～）、ACC賞〈放送コマーシャル賞・個人〉（'57）、民放祭賞（'57）〔趣味〕釣り、絵画〔所属〕日本放送作家協会、日本脚本家連盟

〔住所〕〒486-0942 春日井市神明町49-16

## 服部 裕子 はっとりゆうこ

研究者、大学講師（非）。児童文学、児童文化 1959～ 名古屋市生まれ。愛知教育大学大学院教育学研究科修士課程修了、梅花女子大学大学院文学研究科博士課程満期退学、教育学修士。〔経歴〕幼児教育を専攻した愛知県立大学時代に、児童文学と再会して愛読者となる。卒業後しばらく高校の保育科で講師をしながら、幼稚園で読み聞かせや文字指導を行う。趣味であった人形劇の鑑賞が高じて、しばらく人形劇サークルに入って活動するが、しだいに文学への関心が高まり、大学院に進学。そこで近代文学さらに児童文学を学ぶ。今でも文学や演劇に親しんだ幼少期の体験が生きづけている。〔業績〕「戦時下における塚原健二郎の作品」『国語研究』4 愛知教育大学大学院（'96）、「若松賤子の翻訳作品」『愛知女子短期大学研究紀要』30 人文編（'97）、「戦時体制下における上澤謙二の作品」『愛知女子短期大学研究紀要』31 人文編（'98）、「武田雪夫と愛知」『児童文学論叢』4 日本児童文学学会中部例会（'98）、「戦時体制下における武田雪夫の作品」『愛知女子短期大学研究紀要』32 人文編（'99）〔趣味〕児童演劇鑑賞、トレッキング〔所属〕日本保育学会、日本児童文学学会

〔住所〕〒466-0812 名古屋市昭和区八事富士  
見918

## 林 達美 はやしたつみ

俳優。演劇（人形劇） 1955～ 名古屋市生まれ。南山大学中退。〔経歴〕大学時代より人形劇サークルに所属し、その時期に知った「人形劇団むすび座」代表の誘いもあって、大学を

中退し、その劇団に入団する。以後、役者一筋に20年。東海三県を中心とした幼稚園・保育園・小学校の巡回公演、全国の親子劇場、アメリカ・カナダ・中国の海外公演と、日々飛び廻っている。(業績)「悟空誕生」(東京都優秀児童演劇選定優秀賞)('81)、「とび出せ、人形、1. 2. 3」(厚生省児童福祉文化奨励賞)('86)、「石の馬」(厚生省中央児童福祉審議会特別推薦文化財指定)('87)、「トンボの運動会」(厚生省中央児童福祉審議会特別推薦文化財指定)('92)、「西遊記」(東京都優秀児童演劇選定優秀賞)('94)

(趣味) 読書、ギャンブル、工作 (所属) 人形劇団むすび座

(住所) 〒459-0081 名古屋市緑区大高町北横  
峯1-3 大高荘3-303

### 平井 潮湖 ひらいちようこ

本名・虎雄。元口演童話家、名古屋毎日新聞社記者。口演童話 1899～1967 岐阜県東濃揖斐生まれ。名古屋中学校中退。(経歴) 1916年(大5)に私立名古屋中学校を中退し、名古屋地方専売局に勤めるが'19年には名古屋毎日新聞社の社会部記者となった。潮湖がいつから口演童話を始めたか不明だが、'20年頃に潮湖と大西巨口の童話を小学校で聞き楽しんだと都島紫香が述べている。潮湖の語る童話は、聞いている子どもたちをいつの間にかお話の世界へ引き込んで、手に汗を握るという話が多く、山場へ来ると拍手が湧き起こったという。童謡の作品も残しており、'31年(昭6)から名古屋市仏教会が出した小冊子『花まつり』に「花まつりの歌」などを書き、'48年名古屋市教育委員会が『こども愛唱歌』を出版したときには「馬子はよい声」(井上益三作曲)を発表している。'31年に社会部長になり、'36年に社会部長兼学

芸部長となるが、'42年4月名古屋毎日新聞は新愛知新聞に合併吸収され、同9月には新愛知新聞と名古屋新聞とが合併して中部日本新聞(現中日新聞)が誕生すると、彼は、編集部、出版部を経て「婦人と子ども」誌の編集に携わることとなった。(磯部孝子)

(参考) 都島紫香「名古屋地方で活躍した口演童話家の追想」3(『童話人』中部童話人協会、'51年3月)

### 藤田 六郎兵衛 重昭 ふじたろくろびょうえいしげあき

本名・藤田昭彦。能楽笛方、藤田流十一世家元。伝統芸能(能) 1953～名古屋市西区生まれ。名古屋音楽短期大学(現名古屋音楽大学)卒。(経歴) 1953年(昭28)、藤田流十世家元の孫として生まれ、養嗣子として藤田家に入り4歳より笛の稽古を受ける。'59年、満5歳にて一管『中之舞』にて初舞台。幼少時より、次の曲を演奏した。9歳「鷺乱」、11歳「猩々」、14歳「望月」「道成寺」など。'74年、母校名古屋音楽短期大学の常勤助手となり、能管指導およびオペラ研究授業の助手を勤める。'80年、藤田流十一世家元となる。'85年2月、昭和59年度名古屋市芸術奨励賞、名古屋市青少年のための芸術劇場、能『隅田川』を初演出、5月、北欧能楽団に参加し、平成天皇、皇后両陛下およびスウェーデン国王両陛下ご臨席のもとに演奏する。この時期より一般の方々との出会いを持つべく『能楽講座』を始める。12月ハワイ系移民百年記念能楽団に参加する。'87年、能舞台の空間を各ジャンルと出合わせるにより新たな創造を期待するためのプロデュース公演『能舞台との交響』を始める。'88年、中京テレビ『ふれあい遊歩』のレギュラー・インタビューアとして63回出演。'89年5月、クィーンエリ



ザベス二世号での日本伝統芸能初の公演。'90年4月より国立劇場・能楽三役養成研究所主任講師となる。'91年、重要無形文化財総合指定保持者となる。名古屋青年商工会議所 TARG(ターグ賞) 受賞。2月、パリ公演ミュージーギメ、ユネスコパリ本部にて公演する。'92年、名古屋芸術祭賞(伝統芸能部門)を受賞。能管協奏曲『本丸御殿』をオーケストラと共演。'93年『花傳の會』を主宰し、8月には第1回例会能『井筒』の公演を行う。'95年、中部日本放送番組審議委員となる。'97年、社団法人能楽協会理事となる。5月、ポーランド日本庭園オープニングの構成、演出、演奏。子どもとの関係も重視し、'85年の春日井地区の小学校訪問を皮切りに、〈触れ合いの講座〉を開き、鼓などの日本固有の楽器についての講義と実践を行っている。〔業績〕「ザ・ファンタスティック」主役出演('82)、「隅田川」(能、名古屋市青少年のための芸術劇場、演出)('85)、「名古屋城夏祭り・薪能」企画・構成・演出('86)、「井筒」(能)出演('93)、「梅の木のごとく・笛の家に生まれて」(自叙伝、新聞連載)毎日新聞社('98)〔趣味〕オペラ、読書〔所属〕社団法人能楽協会理事

(住所)〒451-0041 名古屋市西区幅下2-10-9

古田 昂生 ふるたこうせい

口演童話家、元新愛知新聞編集局学芸部長。口演童話 1901～86 名古屋市東区生まれ。愛知中学卒。〔経歴〕1919年(大8)愛知中学を卒業すると、新愛知新聞社に入社した。家庭文化欄の担当だった'21年、20歳のとき、松永亮逸とともに新愛知童話倶楽部を組織し、同年9月に月刊児童雑誌『宝の玉』を発刊することになった。いずれも名古屋新聞がお伽団('16～)

と児童雑誌『兎の耳』('19～)で評判を取っていたからで、それに対抗するためであった。古田は『宝の玉』の創刊から'24年の廃刊まで編集を主管した。竹村半提の泰増寺で行われた護国少年少女同和会と児童教化研究会にも初期のメンバーとして参加した。新愛知新聞社では、自主研修グループの新聞研究会('32～)の発足時のメンバーであり、また、'33年(昭8)名古屋市庁舎の新築工事の落成に際して行われた大名古屋祭のために、新愛知が制作した協賛歌の1つ「中京小唄」の作詞もした。作曲は『君恋し』で名を馳せた佐々紅華で、戦後まで歌われた。(磯部孝子)

(参考)『大衆人事録』帝国秘密探偵社ほか('40)、『童話人』('76年8月)、『中日新聞創業百年史』中日新聞社('87)

松ヶ崎 敬子 まつがさきけいこ

フリーアナウンサー、放送(ナレーション・朗読) 1935～ 名古屋市千種区生まれ。椋山女学園高校卒。〔経歴〕CBC放送劇団・声優デビューから10年後、CBCアナウンサーに転じる。ニュース・取材等のほか、ラジオ放送ワイド番組で13年間、民話・昔話の語りのコーナーを担当する。そのかたわら、文化センターで朗読講座の指導、小・中学校教師を対象にした国語表現法の指導などを行う。退職後、女子短期大学で音声表現法の講師、東海三県県庁管理職員研修の講師等。高校生のための社会科校外講師として「人権について」の講義を行う。〔業績〕「ばつぐんジョッキー」(ディスクジョッキーと語り)民間放送連盟アノンシスト賞('83)、ラジオ番組全国コンクール優秀賞('89)、ラジオドキュメンタリー民間放送連盟優秀賞('91)、アムネスティ・インターナショナル日本・世界

人権宣言翻訳コンテスト「名古屋弁訳 わたし  
の人権宣言」優秀賞（'92）〔趣味〕観劇、手芸、  
俳句〔所属〕日本放送芸術学会

〔住所〕〒464-0082 名古屋市千種区上野2-8-5

### 松 永 亮 逸 まつながりょういつ

元口演童話家、新愛知新聞記者、僧侶。口演  
童話 1899～1980 中島郡国府宮村（現稲沢  
市）生まれ。曹洞宗第3中学林（現愛知学院高  
校）卒。〔経歴〕中島郡国府宮村治郎丸の農家  
に生まれ、幼いときに同郡明治村の曹洞宗法花  
寺に引き取られた。曹洞宗第3中学林時代に童  
話クラブの法友会に入り、小池長も出入りした  
乾徳寺子ども会や、竹村半提の護国少年少女同  
和会などで実演童話の練習を積んだ。1921年  
（大10）中学林卒業後、新愛知新聞に入社する  
と同時に、古田昴生とともに、新愛知童話倶楽  
部を組織し、子ども会などの依頼に応じて各地  
へ出張し童話を口演した。JOCKの亀山半眠の  
呼びかけで、童話をラジオ放送するためのアン  
テナクラブにも属し、この地域の口演童話界の  
指導的立場を確実にした。彼は、人に語るため  
には〈正しくモノを見る〉ことと〈声を鍛える〉  
ことが必要であると考え、洋画家鈴木不知のも  
とで洋画を学ぶとともに、声楽とピアノの勉強  
を始めた。後年、小池長と比較され「話術の小  
池」に対して「声の松永」と言われた。'39年  
（昭14）頃、日本児童修養会を設立し、'41年  
には日本少国民修養会と改称、名古屋市公会堂  
を使用して子どもたちに低料金（1人10～20銭）  
で童話、絵話、影絵芝居、映画などを見せたが、  
戦局の進展とともに開催を断念。'40年に法花  
寺の住職となるが、愛知県銃後児童文化連盟の  
設立と運営に尽力した。戦後も名古屋童話協会  
の創立に積極的に参加し、第2代の会長にも

なった。また、かつて小池長が園長をした雲竜  
幼稚園の旧園舎を用いて名古屋こども文化学園  
を設立するなど大いに活躍した。（磯部孝子）

〔参考〕都島紫香「名古屋地方で活躍した口  
演童話家の追想」10（『愛語』名古屋童  
話協会、'77年2月）

### 水 内 喜久雄 みずうちきくお

作家。文学（創作・詩）、音楽、教育 1951  
～ 福岡県嘉穂郡鎮西村（現飯塚市）生まれ。  
愛知県立大学文学部卒。〔経歴〕教科書から学  
ぶ子どもたちにとって文学作品や歌教材は子ど  
もたちの実態に合わず、かえって嫌いになる原  
因にもなっている。もっと気楽に文学や歌に親  
しめる教材の発掘と創造を中心に活動している。  
さらに、子どもたちの人権について発言し続け  
ていこうと考えている。〔業績〕『けむし先生は  
なき虫か』大日本図書（'92）、『詩にさそわれて  
（Ⅰ～Ⅲ）』あゆみ出版（'95、'95、'96）、『子ど  
もといっしょに読みたい詩』（編著）（正、続、  
続々）あゆみ出版（'92、'94、'96）、『輝け！い  
のちの詩』（編著）小学館（'96）、『教室でうた  
いたい歌』全5巻（編著）民衆社（'94、'95、  
'96、'97、'97）〔趣味〕ゲーム類一切〔所属〕  
日本児童文学者協会、東海詩研究会、教育科学  
研究会

〔住所〕〒468-0055 名古屋市天白区池場  
4-802

### 森 川 紫 気 もりかわしき

本名・美添鉉二。元口演童話家、市立名古屋  
図書館司書。口演童話 1883～1963 海軍兵  
学校中退。〔経歴〕肺結核のため海軍兵学校を  
やむなく退学。早稲田大学の文学科講義録を  
取って勉強しながら、少年のころ愛読した『少

年世界』の巖谷小波の童話の世界に心を引かれていった。1906年(明39)から小波の木曜会に出席するようになり、やがて小波門下の一員となった。'07年から自宅にある子ども向けの蔵書を子どもたちに開放して読書の機会を与え、時々童話を口演して聞かせた。この文庫を利用した子どものなかに、大仏次郎と水谷良重がいたという。'11年には東京上野の帝国図書館に勤めており、その頃、夏目漱石の家にはいた西村濤蔭の妹と漱石の媒酌で結婚をした。'22年(大11)末に市立名古屋図書館司書に任命されて来名した。同館は翌年9月28日に竣工、10月1日から閲覧事務を開始した。紫気は、掌書部長として収書・整理・奉仕の責任に当り、とくに子どもの読書活動には関心が高く、読書への導入という観点からも口演童話活動に力を入れた。'23年から'35年(昭10)までに10回、市立名古屋図書館が主催して全国的に活躍する口演童話家を招いてお話の会(後の児童大会)を開催し、また、開館して間もない'24年1月から、図書館員とこの地域の口演童話家の協力を得て毎月2、3回お伽ばなし会を開いた。

彼は、亀山半眠が呼びかけたアンテナクラブのメンバーであり、また図書館の職員で口演童話に関心を持った人たちの集まり「太陽童人会」にも顧問格で加わり、指導的役割を果たした。紫気は「水地獄」「風屋福右衛門」「みちのく長者」など語ったが、話ぶりは穏やかな調子で淡々と語り、小波の話術の継承者と言われた。なお、口演童話家・童話作家の都島紫香は、森川紫気から感化を受け、「紫香」という名をつけてもらったという。'40年に市立名古屋図書館を退職した後、蓬左文庫の整理・管理のため東京へ戻り'47年から'63年まで国会図書館に勤務した。(磯部孝子)

(参考) 都島紫香「名古屋地方で活躍した口演童話家の追想」4と5(『童話人』中部童話人協会、'51年4、6月)

山田 智子 やまだともこ

演出家、劇団杉の子代表。演劇(演出) 1915～名古屋市東区堅杉の町生まれ。名古屋市立第三高女(現旭丘高校)卒、国立教育研究所青少年指導協力者養成所(C・O・C)卒。(経歴)戦後大人の娯楽に反し児童向きの文化は皆無に等しく又遊びにも情操欠如を感じた。1947年(昭22)名古屋青年劇団に入団。「家なき子」を始め児童劇の上演に携わる。'46年養成所卒業後法務府教官の任命を受け、格子無き牢として開設された国立瀬戸少年院分院「明德少女苑」に勤務。その後愛知県教育委員会文化課に勤務した。当時、鍵っ子問題や親子の断絶問題が生じ、「ひとときでも親子共通の目的ある行動が…」の願いから'62年(昭37)に青年劇団を退団。同年8月に劇団「杉の子」を結成し、'64年12月南図書館講堂、'65年1月岡崎市の小学校二校で、松本道子バレエ団、小林忠雄氏の「みんなと歌おう」とともに、童話劇「マッチ売りの少女」を上演して、年忘れおよび新年子ども会を催した。'91年(平3)には依頼により佐渡の「第2回子どものための舞台芸術大祭典」に出演。子ども同士での交流ある舞台を企画し、宮沢賢治著「雪わたり」を脚色・演出し、佐渡佐和田小学校1～6年の男女10名、先生1名で合同公演を開く。終演後子どもの座談会を開催した。第7回「国民文化祭石川'92」と、第10回「国民文化祭とちぎ'95」に依頼により出演。ともに佐渡と同様形式で上演した。稽古は各地とも夏休みに現地へ赴き指導、各会場ともその成果を挙げた。'96年には子どものいじめ・自

殺に心痛く、意志の強い子に育ってほしいことを願って脚本を書き演出し、上演した。'85年、愛知一中（現旭丘高校）創立百年祭記念基金より記念賞。'89年1月、全国児童青少年演劇協議会から特別賞。'92年、全国税理士共栄会文化財団。'93年、東洋信託文化財団から助成を受けた。苦難を克服して児童文化に盡したとの理由であった。〔業績〕「赤い靴」（演出）中小企業センターホール（'66）、民話劇「しいのみ・かしののみ・おばけのみ」（演出）名古屋市民会館中ホール（'81）、「不思議な森のものがたり」ヘンゼルとグレーテルより（演出）名古屋市民会館中ホール（'94）、「いたずらゴンちゃんところども達」（新美南吉の童話「手ぶくろを買いに・ごんぎつね」より）2幕（脚本・演出）名古屋市民会館中ホール〔趣味〕観劇、スポーツ観戦、旅行、音楽、美術鑑賞〔所属〕元名古屋青年劇団、劇団杉の子

〔住所〕〒466-0064 名古屋市昭和区鶴舞4  
丁目4番15号

### 若尾正也 わかおまさや

演出家、照明家。演劇（舞踊）1914～1994  
横浜市生まれ。早稲田大学理工学部電気工学科卒。〔経歴〕演出作品として劇団演集にて、「ニューポラのある町」「橋のない川」「アンネの日記」「コーカサスの日墨の輪」「翼は心につけて」「楽園終着駅」「黄昏」「ペールギュント」などを手がける。なお、1975年（昭50）から'86年まで、名古屋オペラグループの親と子のためのサマーコンサートにたずさわる。（若尾隆子）〔業績〕「キューポラのある町」（演出、'65）、「陽気なハンス」（同、'66）、「スカパンの悪だくみ」（同、'67）、「アンネの日記」（同、'69）、「翼は心につけて」（同、'80～'81）以上学校巡

回公演。日本照明家協会より功労賞受賞（'84）、全国舞台テレビ照明事業協同組合より功労賞受賞（'86）、日本芸能実演家団体協議会より表彰状受賞（'86）、名古屋市芸術特賞受賞（'88）

### 若尾隆子 わかおたかこ

俳優、劇団演集。演劇、TV 1918～ 埼玉  
県川越生まれ。東京府立第八高等女学校卒。  
〔業績〕出演作品 「夕鶴」（'55）、「馬蘭花」（'61、  
'62）、「三家福」（'63、'64）、「アンネの日記」  
（'74）、「翼は心につけて」（'80）〔趣味〕読書、  
音楽〔所属〕劇団演集

〔住所〕〒464-0006 名古屋市千種区光が丘  
1-22-3-306

## 補 填（団体）

### 愛知キャンプ カウンセラー協会 あいちきんぱう かうんせらーきょうかい

文化活動 1958～〔代表〕寺嶋要一〔構成  
員〕OB部（理事関係約40人）、現役部（大学  
生約100人）〔沿革〕愛知キャンプカウンセ  
ラー協会は、県下でもっとも古い歴史をもつ  
キャンプカウンセラー団体である。現在、愛知  
県相楽山荘、愛知県佐久島青少年キャンプセン  
ター、愛知県野外教育センターの3ヶ所のキャ  
ンプ場を中心に、学校団体や家族、子ども会を  
はじめとする諸団体のお世話やキャンプ目的の  
達成、夏の思い出づくりをしている。また、名  
古屋市転地療養事業を田原町で行なうほか、茶  
臼山、作手村など各地のキャンプ場でカウンセ  
ラー活動を行っている。キャンプシーズン以外  
では、ゲーム、救急法、自然技術などの研修を  
し、キャンプカウンセリングの技術のさらなる  
向上を目指している。'99年で24回を迎えた企

画キャンプは、キャンプを通じて、自然と親しむ機会と人とのふれ会いを感じてもらおうという趣旨のもとに、宣伝、運営、企画まですべてを会員の手で行っている。'98年には、愛知県レクリエーション協会より優良団体表彰を受けた。(市野貴士)

〔連絡先〕〒467-0825 名古屋市瑞穂区柳ヶ枝町2-41-9 第2村上ビル5階  
☎(052) 882-9880

#### 熱田神宮児童合唱団 あつたじんぐうじどうがっしょうだん

音楽(合唱) 1969～〔代表〕川津益章(丹野和子、田中利佳、遠山敏子)〔構成員〕15名(小学生1年～高校生1年)〔沿革〕熱田神宮緑陰教室(来年で50周年)を母体として1969年(昭44)に設立された。初期は「わらべ歌」を中心としたレパートリーで発足。またリコーダーによる演奏も当初よりとり入れられ、今日にいたっている。近年では、新しい児童合唱の曲を求め、「現代児童の歌協会」の作詩者・作曲家、愛知・岐阜の作詩者・作曲家の方々との交流を深めている。当合唱団の定期演奏会を年1回開催しているほか熱田神宮のさまざまな行事に出演している。また、岐阜、三重、大阪の5つの合唱団との交歓演奏会は20年に及んでいる。今春亡くなった西六郷少年少女合唱団の鎌田典三郎と作曲家木塚光雄の指導による。(川津益章)〔所属〕愛知県少年少女合唱連盟

〔連絡先〕〒456-0031 名古屋市熱田区神宮1-1-1 文化部教化課  
☎(052) 671-0852

#### 愛知ムジカ少年少女合唱団 あいちむじかしょうねんしょうじょがっしょうだん

音楽(合唱) 1989～〔代表〕田村文英〔構成員〕40名(小学生2年～高校生2年)

〔沿革〕従来の合唱スタイルにこだわらず、「子どもが主役の合唱団」を目指し、1989年(平成元)に設立。一生のうち、数年しか体験することのできない「天使の声」を大切にし、合唱だけではなく、3年前より、ダンス部門も作り、より個性を生かす場を広げた。この10年間、独自の発表会のほか、オペラ・ミュージカルの出演、シティソング・イベントテーマ曲の収録などの活動をしている。今後も、歌と踊りに意欲的な子どもを育てる合唱団として歩んでいきたい。(田村文英)〔所属〕全日本少年少女合唱連盟、愛知少年少女合唱連盟

〔連絡先〕〒474-0024 大府市朝日町3-223  
☎(0562) 44-2521

#### セントラル愛知交響楽団 せんとらるあいちごうきょうがくだん

音楽(オーケストラ) 1983～〔代表〕運営委員長 瀬戸和夫(事務局長 野々山亨、常任指揮者 松尾葉子)〔構成員〕34名(男19名、女14名)、事務局5名、法人賛助会員24社〔沿革〕瀬戸和夫を中心とした地元音楽家の有志によって、プロの団体としての自覚と責任をもって演奏活動を行い、地域文化の発展と向上に寄与することを目的とし、名称をナゴヤシティ管弦楽団として1983年(昭58)に発足した。芸術顧問・正指揮者には小松一彦、常任指揮者に古谷誠一を迎え、自主運営オーケストラとして中部地域を中心に幅広く活動を行ってきた。

'88年より年間3回の定期演奏会を開催し、その演奏は高く評価された。'95年5月「第10回パチンコ大衆文化賞」、'96年3月平成7年度愛知県芸術文化選奨文化賞を受賞した。'96年よりしらかわホールを拠点として二管編成(50名前後)規模にして活動を開始する。'99年3月、任期満了となった小松一彦に代わって、4月よ

り常任指揮者に地元出身で女性として初めてブザンソン指揮者コンクールで優勝した松尾葉子を迎え、一層の充実を図りながら特色のある地域に根ざしたオーケストラを目指している。なお、'88年より岩倉市の好意により練習場の無償借用や事業補助を受けて岩倉市での演奏回数の増加を機会に、'97年よりセントラル愛知交響楽団と名称を変更した。現在、自主公演として年間6回の定期演奏会や第九交響曲の公演、そのほか、バレエ、オペラ、ミュージカルなどの出演、とくに学校などにおける音楽鑑賞会にも積極的に取り組み、管弦楽アンサンブルから、フルオーケストラまで多様な編成で、年間約100回の公演を行っている。(野々山亨) (所属) 日本音楽家ユニオンオーケストラ協議会、愛知芸術文化協会、愛知児童青少年舞台芸術協会

(連絡先) 〒456-0061 名古屋市熱田区西郊通6-15

☎ (052) 682-2876

### 劇団杉の子 げきだんすぎのこ

演劇(児童劇) 1962～(代表) 山田智子(指導 関山三喜夫) (構成員) 11名(小学生6、中学生1、高校生4) (沿革) '62年(昭37)に山田智子により創設。趣旨として、総合芸術である演劇を通して、情操陶冶に努めること、正確な発声発音、常識的礼儀の身につけられる一助としたりする。演技での基本訓練を重視し、演劇(児童劇)活動をするアマチュア劇団としての性格をもつ。これまでの活動をふり返ると、'64年12月、「年忘れ子供大会」を皮切りに、'66年8月には、第1回定期公演として「赤い靴」を演じ、以後年1回定期公演を行った。また他県の「子どものための舞台芸術大祭典」「国民文化祭」からの出演依頼を受け、アマチュア

の特性を發揮し、現地の児童との交流が出来るように企画・演出した。受賞として'85年愛知一中(現旭丘高校)創立百年祭記念賞基金より記念賞。'89年1月、全国児童青少年演劇協議会より特別賞を受けた。(所属) 全国児童青少年演劇協議会、愛知芸術文化協会

(連絡先) 〒466-0064 名古屋市昭和区鶴舞4丁目4番15号

☎ (052) 731-1721

### 柵瀬友理バレエ団 たなせゆりばれえだん

舞踊(バレエ) 1957～(代表) 柵瀬友理(構成員) 120名(沿革) 創立者は柵瀬友理。当バレエ団の特徴としては、青少年の音感、情操教育の育成と、美しい四肢と豊かな感受性を磨き、将来、芸術性高い人材を作ることである。なお、当バレエ団では、クラシックバレエの基礎の技法を用い、創作バレエを長きにわたり公演している。当バレエ団に在籍中の山田薫は'80、'81年に東京新聞主催『全国舞踊コンクール』シニアの部で1位という栄ある賞を2年連続して成しとげた。また、男性の踊手としては、盛川耕、真栄城賢を輩出し、現在ではフリーとして東京を中心として、全国の舞台で舞踊活動をしている。'98年には柵瀬友理が社団法人日本バレエ協会より『舞踊文化功労賞』を受賞した。(所属) 社団法人日本バレエ協会中部支部、愛知芸術文化協会、名古屋洋舞家協議会、名古屋市天白文化ふおーらむ

(連絡先) 〒450-0003 名古屋市中村区名駅南1-3-14 石原ビル6F

☎ (052) 586-0271

### 名古屋おやこ劇場 なごやおやこげきじょう

文化運動(演劇) 1971～(代表) 竹内洋江

〔構成員〕約 2,500 名 〔機関誌〕『名古屋おやこ劇場』'71 ～ 季刊 〔沿革〕1971 年（昭 46）に大脇雅子、しかたしん、佐藤宗夫、山下智恵子、加納克己、小島恵らを発起人として創設される。初代会長は中村精。生の舞台芸術の鑑賞と、地域における自主的文化活動を通して、子どもたちの豊かな成長を願って創立した。年間 10 作品以上の優れた舞台芸術の公演と、市内各地で子ども主体の創造的活動を多彩に展開。幼児を持つ母親対象の講座や、厚生省「子育て支援基金」の助成を受けての創造表現活動は、会員外の参加を含めて実施している。'99 年 4 月には、9 劇場を再編して「名古屋おやこ劇場」となり、特定非営利活動法人化を目指して準備中である。'95 年には、パチンコ大衆文化賞を受けた。（山口君子）〔所属〕おやこ劇場愛知県センター、愛知芸術文化協会

〔連絡先〕〒 460-0005 名古屋市中区東桜 2-22-26 第 2 照運寺ビル 225

☎ (052) 939-2810 FAX (052) 939-2868

### 名古屋少年少女合唱団 なごやししょうねんしょうじょがっしょうだん

音楽 1966 ～ 〔代表〕水谷俊二（指揮者／永友博信、ジュニア指揮者・事務局／谷鈴代、ヴォイストレーナー／岡田園子、ピアニスト／猪飼ゆかり）〔構成員〕約 130 人（小学 2 年生～高校 3 年生）〔沿革〕1966 年（昭 41）に創立。その歩みを国際的活動を中心に辿ってみる。ヨーロッパ演奏旅行は、第 1 回の'77 年にはスイスを訪れ、つづいて'80 年、'86 年、'89 年、'97 年（平 9）にも行き、都合 5 回、スイス、オーストリアなどへ出かける。アジア諸国には、'83 年（昭 58）に名古屋市より文化使節として中国の南京市へ派遣される。'89 年には、タイ、マレーシアなど東南アジアで公演した。

国内では、'91 年、国立モスクワ少年少女合唱団ほかとジョイントコンサートを開き、またベルリン・コミッションオーパー「ラ・ボエーム」に出演する。'92 年、英国イートン校聖歌隊、リズンクライスト、クワイヤー（シンガポール）とジョイントコンサートを開く。'93 年には、サンフランシスコ・オペラセンター「ラ・ボエーム」（名古屋国際音楽祭）や、愛知県文化振興事業団第 1 回公演「魔笛」などに出演。'94 年、ベルリン・コミッションオーパー「道化師」に、'95 年、西宮少年合唱団ほかとのジョイントコンサート「阪神の亡き子たちに捧げる鎮魂歌」（愛知芸術劇場コンサートホール）などに、'96 年には、レニングラード国立歌劇場オペラ「スベードの女王」や愛知県芸術文化振興事業団第 50 回公演「トゥーランドット」などに、'97 年には、メトロポリタンオペラ「カルメン」など（名古屋・東京）に出演した。受賞には、'80 年に名古屋市芸術奨励賞、'97 年に愛知県芸術文化選奨文化賞を受けた。

また、'97 年には、全国ジュニア・コーラスフェスティバル（鎌倉）に参加し、あおぞら賞を受賞し、第 5 回ヨーロッパ演奏旅行で参加したヌーシャテル国際合唱フェスティバルでは、児童合唱部門で、2 位 3 位なしの 1 位を受賞した。現在、定期練習日として毎週土曜日に集まっている。（岡田いく子）

〔連絡先〕〒 461-0013 名古屋市東区飯田町 57

谷鈴代方 ☎&FAX (052) 931-9023

### 名古屋むすめ歌舞伎 なごやむすめかぶき

歌舞伎 1983 ～ 〔代表〕加藤えみ子 〔構成員〕20 名（10 代～ 40 代、女性）〔機関紙〕「MUSUMEKABUKI NEWS」年 2 ～ 3 回 〔沿革〕1983 年（昭 58）に、加藤えみ子により創

立、旗揚げ公演を行う。以後、毎年1回自主公演。名古屋市民会館、愛知県芸術劇場などの要請による公演も数回に及ぶ。'92年(平4)には、東京三越劇場主催公演を機に、団員3名が市川姓を市川宗家より許される。'95年には、文化庁芸術祭主催公演を国立劇場にて行なう。市川團十郎監修、指導公演も多く、また市川猿之助新演出を得ての公演なども追加公演をするほどの盛況を得た。'99年には、15周年記念公演として、高知の絵金を幕間にスライドで写し、「義経千本桜」の通し公演を市川團十郎監修、指導にて行なった。目的としていることは、日本が世界に誇る演劇形態としての「歌舞伎」を探求、習熟することによって日本人固有の感性、情緒を再認識し、ひいては伝統・文化を古びた飾り物としてではなく、今日に脈打ち続ける財産として広く紹介し、伝承することにある。また、長年にわたって男性のみの手にゆだねられてきた歌舞伎を女性の視点と肉体を持って演じることで、より身近な共感を誘い観劇層の拡大と定着をもめざしている。受賞歴として、'90年、第12回都市文化奨励賞、'93年、日本演劇協会賞、'95年、愛知県芸術文化選奨、'96年、松尾文化芸能賞、'96年、第18回サントリー地域文化賞がある。

〔連絡先〕〒460-0012 名古屋市中区千代田  
3丁目10-3

☎ (052) 323-4499

### ななし座 ななしざ

児童劇団 1952～88〔代表〕川口僚一朗  
〔沿革〕1952年(昭27)、当時NHK児童劇団の指導者だった川口僚一朗(1908～86)が児童劇を通して情操豊かな子どもを育成することを目的に創立した。幼児から高校生まで常時60人

ほどの劇団員が熱心に稽古に励み、夏休みに中日劇場などで公演した。すべてミュージカルドラマ。全部書きおろし。なまのオーケストラ、なまの合唱で一貫し、歌と踊りの夢の舞台と言われた。作品は谿溪太郎作、平岡照章作曲「酒呑童子」、堀尾幸平作、加藤修滋作曲「ガララに盗まれた神の笛」など80余本に及ぶが、後者は'76年第9回新美南吉文学賞を受賞した。'88年に劇団は主宰者川口の死とともに解散したが、現在も活躍している多くの優秀な人材を輩出した。(堀尾幸平)

### 半田少年少女合唱団 はんだしょうねんしょうじょがっしょうだん

音楽(合唱) 1969～〔代表〕小林富吉(間瀬芳郎、波田美保、新美佳代、秋吉佐智子、中西智美)〔構成員〕40名(小学生16名、中学生19名、高校生5名)〔沿革〕1969年(昭44)に半田市の児童・生徒で結成した県内でも伝統のある少年少女合唱団。合唱文化を通し、地域での豊かな人間形成づくりに目標をおき、年1度のミュージカルによる定期公演と、文化庁後援の日本少年少女合唱祭出演を活動の柱にしている。海外合唱団との交流もあり、パリ木の十字架合唱団、ウィーンの森少年合唱団、中国小紅花芸術団、ドイツレーゲンスブルク大聖堂合唱団、ペンシルベニア少年合唱団などとの共演の実績をもつ。'99年7月には、オーストラリア・ヘイスティングコアラズバンドとのコンサートも行なった。なお、'92年、'93年には知多合唱コンクール総合最優秀賞を受く。'93年には、童話作家新美南吉にちなんだ中日劇場ミュージカル「ごんぎつね」に出演。'97年には、シドニー・オペラハウスにて海外公演。'98年には、定期公演で当団OBのソプラノ歌手手島千尋さんと共演した。このような各方面にわ



たる活動は、団員たちの意識啓発にもつながっている。(榊原康正)〔所属〕愛知県少年少女合唱連盟、半田市合唱協会、半田市文化協会

〔連絡先〕〒475-0902 半田市宮路町102

榊原康正方

☎ (0569) 21-4164

### ミル・ハウス みる・はうす

子どもの本専門店 1986～ (代表) 鈴木ルミ (構成員) 3名 (沿革) 児童書・ヨーロッパの玩具の展示と販売を行う。児童書専門店として、1986年(昭61)より営業を開始したが、同時に「春日井より文化を!」をテーマに各種講演会、絵画展、児童書原画展を行なっている。オープンより10年を経て、売ることにより児童書、絵本の楽しさをより多くの人々に知っていただくために、スペースをつくり、文庫活動も取り入れ、定期的に読み語りの会・絵本クラブ・小学校よみ語りなど、幅広く文化的活動を行なっている。児童書・絵本の楽しさを、子どもにとどまることなく、広く大人たちにも理解を求め、また地域にとどまることなく全国の専門店との交流をも大切にしている。なお、「ミルギズ文庫」50名、「ミルハウス絵本の会」20名の組織をもって活動している。(鈴木ルミ)

〔連絡先〕〒486-0805 春日井市岩野町2-56

☎ (0568) 82-1433